

## 平成 24 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の実施状況について

## 1 平成 23 年度 質問紙調査結果及び支援結果の概要について

別添「平成 23 年度『こころの健康度・生活習慣に関する調査』結果概要」及び「平成 23 年度県民健康管理調査『こころの健康度・生活習慣に関する調査』結果報告書」参照。

## 2 平成 24 年度 質問紙調査の進捗状況（平成 25 年 4 月 30 日現在）

## (1) 回答状況等

回答状況と回答率

区分	調査対象者	回答数	回答率
子ども	27,107	10,968	40.5%
一般	184,507	54,297	29.4%
合計	211,614	65,265	30.8%

## (2) 支援状況

## ① 電話による支援

回答内容から支援が必要と思われる方に対し、臨床心理士（4名）、保健師（2名）等が電話をかけ、こころの健康に関する問題について支援を行っている。

区分	要支援者数※ <sub>1</sub>	要支援率※ <sub>2</sub>	対応数※ <sub>3</sub>	対応率	支援済数※ <sub>4</sub>	支援済率
子ども	537	5.2%	527	98.1%	371	69.1%
一般	1,792	4.1%	1,770	98.8%	1,257	70.1%
合計	2,329	4.3%	2,297	98.6%	1,628	69.9%

※<sub>1</sub> 要支援者

子ども：SDQ（子どもの情緒と行動について）が20点以上に該当する方。

一般：K6（全般的な精神健康状態）が20点以上またはPCL（トラウマ反応）が70点以上に該当する方。

共通：上記の点数に該当しない方のうち、自由記載欄及び欄外への記載内容より支援が必要と判断された方。

要支援者数：4月30日までに支援が必要と判断された方。

※<sub>2</sub> 要支援率

4月30日までに支援が必要と判断された方の割合。

※<sub>3</sub> 対応数

内容を確認し、一度は電話をかけているもの（不在を含む）と、調査票を確認した結果、電話番号の記載がないことが分かっているもの。

※<sub>4</sub> 支援済数

支援が終了しているもの。

② 文書による支援

電話番号の記載がない方や不在が続いている方については、順次文書をお送りし、「こころの健康度・生活習慣に関する調査」専用ダイヤルをご案内するとともに、調査票記入時からの体調の変化について、返信用はがきにてお知らせいただき、電話相談を希望される方等に対し、電話による支援を実施している。

③ 市町村等との連携による支援

継続的な支援が必要と判断された方の状況等を、市町村と共有している。継続支援については、各市町村が判断し、必要に応じてふくしま心のケアセンターとも連携している。  
市町村への申し送り件数：9件

④ その他支援

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」専用ダイヤルへ、直接お電話をいただいた場合も、相談をお受けしている。

問合せによる支援：5件

(3) 支援に関する今後の方針

① SDQ、K6、PCLの先行研究における基準値を超え、上記要支援者に該当しない方への支援を進める。

② SDQ、K6、PCL以外の要支援者の基準に該当する方に対する支援を進める。

支援基準：必要な医療機関を受診されていない方。

睡眠の質に満足しておらず日中に気が滅入ったり活動量が低下したりする方。

CAGE（飲酒に関する質問4項目）で2項目以上に該当する方。

自由記載欄や欄外への記載内容から、支援が必要と判断された方。

(4) 回答率向上への取り組み（案）

平成23年度の回答率（子ども63.4%、一般40.7%、合計43.9%）に対し、現在の回答率が低下しているため、回答率向上のための対策を検討・実施していく。

## I. 平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果概要

### 1. 目 的

チェルノブイリ原発事故の健康への長期的影響として、心身における変調が主要な問題の一つとして指摘されているところである。福島県の県民においても、放射線への不安や避難生活等により、精神的な苦痛を受けていることが予想される。また、このたびの大震災により、近親者が亡くなったり、家屋などの財産を喪失したり、恐怖体験をすることにより、心的外傷(トラウマ)を負った県民も多いと予想されることから、県民のこころの健康度や生活習慣を把握し、適切なケアを提供するため、「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施した。

### 2. 対 象

平成 23 年度の対象は、避難区域等の住民及び基本調査の結果必要と認められた方であり、具体的には、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、南相馬市、田村市、川俣町の全域及び伊達市の一部(特定避難勧奨地点関係地区)の市町村に住民登録があった方、210,189 人を対象とした。

子ども用①：平成 16 年 4 月 2 日から平成 23 年 3 月 10 日までに生まれた方(未就学児)	11,717 名
子ども用②：平成 10 年 4 月 2 日から平成 16 年 4 月 1 日までに生まれた方(小学生)	11,791 名
子ども用③：平成 7 年 4 月 2 日から平成 10 年 4 月 1 日までに生まれた方(中学生)	6,077 名
一 般 用：平成 7 年 4 月 1 日以前に生まれた方	180,604 名

### 3. 方 法

上記対象に対して、上記区分に従い、調査票(自記式または保護者回答)を郵送した。

### 4. 集計対象期間

平成 24 年 1 月 20 日から平成 24 年 10 月 31 日までとした。

### 5. 結 果

回答者数(回答率)は、子ども用①が 7,824 人(66.8%)、子ども用②が 7,509 人(63.7%)、子ども用③が 3,412 人(56.1%)、一般用が 73,569 人(40.7%)であった。

集計対象とした有効回答数(有効回答率)は、子ども用①が 7,818 人(66.7%)、子ども用②が 7,464 人(63.3%)、子ども用③が 3,411 人(56.1%)、一般用が 73,433 人(40.7%)であった。上記回答者数には、白紙で提出されたケースが含まれており、集計対象からは除外した。また、回答者数には、回答者 1 人が複数票提出したケースも含まれており、その場合には、1 人 1 票の回答のみを集計対象とした。

調査票ごとに、各項目について結果を集計した。集計結果は、結果報告書のとおりである。なお、各項目に欠損値があるため、合計は上記有効回答数と一致しない場合がある。

## 6. まとめ

### 1) 子ども用①（未就学児）

- ・ 子ども①の対象者は 11,717 人であったが、子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版)が 4 歳以上を適応年齢とするために、SDQ 有効回答数は 3,427 人であった。SDQ 総合得点を子ども②③世代(小学生・中学生)と比較すると先行研究でのスクリーニング基準である 16 点以上の割合(24.4%)、当初の支援対象とした 20 点以上の割合(11.3%)は明らかに高い傾向を示した。
- ・ 男女別にみると、男児では 16 点以上が 27.1%、20 点以上が 12.7%であったのに比べ、女児では 16 点以上が 21.5%、20 点以上が 9.7%と低い傾向にあった。
- ・ 主観的健康感(問 1)については、約 98%が、とくに問題は無い(「きわめて良好」、「良好」、「普通」)と回答しており全体として良好な結果が得られた。しかし、約 2%は主観的健康感において問題あり(「悪い」、「きわめて悪い」)と回答していた。
- ・ 平均睡眠時間は 9 時間 43 分、平均昼寝時間は 1 時間 47 分であり、同年代の首都圏調査<sup>1)</sup>に比べ、やや睡眠時間が短く、昼寝時間が長かった。

### 2) 子ども用②（小学生）

- ・ 子ども②の対象者は 11,791 人であり、SDQ 有効回答数は子ども①(未就学児)と比較して約 2 倍(7,450 人)であった。SDQ 得点の 16 点以上の割合(22.0%)、20 点以上の割合(10.9%)は子ども①(未就学児)と③(中学生)の間であった。
- ・ 男女別にみると、男児では 16 点以上が 24.6%、20 点以上が 12.6%であったのに比べ、女児では 16 点以上が 19.3%、20 点以上が 9.1%と低い傾向にあった。
- ・ 主観的健康感については、97%以上が、とくに問題は無い(「きわめて良好」、「良好」、「普通」)と回答しており全体として良好な結果が得られた。しかし、約 3%は主観的健康感において問題あり(「悪い」、「きわめて悪い」)と回答していた。
- ・ 平均睡眠時間は 8 時間 36 分であり、同年代の全国調査<sup>2)</sup>に比べやや睡眠時間が短かった。また、体育以外の運動を「ほとんどしていない」が半数以上(53.0%)であり、必ずしも良好ではない生活習慣を有する者が多いことが示された。

### 3) 子ども用③（中学生）

- ・ 子ども③の対象者は 6,077 人であり、有効回答 3,332 人のうち、SDQ 16 点以上は 16.2%、20 点以上が 7.7%であり、子ども①②に比較して低かった。
- ・ 男女別にみると、男子では 16 点以上が 15.8%、20 点以上が 7.3%であったのに比べ、女子では 16 点以上が 16.5%、20 点以上が 8.1%と高い傾向にあった。
- ・ 主観的健康感については、95%以上が、とくに問題は無い(「きわめて良好」、「良好」、「普通」)と回答しており全体として概ね良好な結果が得られた。しかし、約 5%は主観的健康感において問題あり(「悪い」、「きわめて悪い」)と回答していた。
- ・ 平均睡眠時間は 6 時間 53 分であり、同年代の全国調査<sup>2)</sup>に比べやや睡眠時間が短かった。また、体育以外の運動を「ほとんどしていない」が半数近くおり(47.0%)、必ずしも良好ではない生活習慣を有する者が多いことが示された。

## 子ども用の①②③全体のまとめ

- ・ 子どものこころの健康度を評価する指標として SDQ を用いた。日本での被災していない一般人口を対象とした先行研究<sup>3)</sup>における SDQ16 点以上の割合(9.5%)と比較して、今回の対象ではすべての群で高かった。また、子どもの年齢が高いほど SDQ 得点が低い傾向が見られた。以上から、子どものこころの健康度は、支援を必要とするレベルにある者の割合が高いことが確認され、それは若年者ほど顕著であった。
- ・ 全体的に睡眠時間が短い傾向がみられており、肥満や生活習慣病の発症への影響が懸念された。また、体育の授業以外ほとんど運動をしていない者が約半数を占めていた。

## 4) 一般用（平成 7 年 4 月 1 日以前に生まれた方）

### (1) こころの健康度

- ・ 全般的な精神健康状態(K6)は、13 点以上をカットオフ値とすると、日本の地域住民の平常時では 3.0%が該当し<sup>4)</sup>、トラウマ反応(PCL)は、44 点以上、あるいは 50 点以上をカットオフ値とすると、米国におけるニューヨークテロ後の作業員では各々20.1%、11.1%が該当した<sup>5)</sup>。それらの先行研究を参考に、支援を要する基準を K6 は 20 点以上、PCL は 65 点以上と設定した。
- ・ K6 は、20 点以上が 3.3%であり、平常時のカットオフ値の割合と同等という高い値を示した。男性 2.5%に比し女性は 3.8%と多かった。年齢別では 70 代以上が 3.9%で多く、10 代では 1.9%と少なかった。
- ・ PCL は、65 点以上が 4.6%で、男性 3.9%に比し女性は 5.2%と多かった。年齢別の傾向は、K6 と同様であった。

### (2) 生活習慣

- ・ 約 2 割の人は自身の健康(主観的健康感)を「悪い・きわめて悪い」と評価しており、高血圧を診断された経験のある人の約 8 割の人は高血圧で通院していた。
- ・ 睡眠では約 7 割の人が不満を持っており、日中の活動への影響も示された。
- ・ 運動は「ほとんどしていない」者が約半数(50.9%)いた。
- ・ 現在喫煙者は 20.7%、現在飲酒者は 44.1%、多量飲酒者(1 日 2 合以上飲酒)は 9.6%にみられた。また、震災以前の飲酒者は 42.0%であり、1 年後の現在飲酒者の割合は 44.1%であった。

## 参考文献

- 1) 第4回 幼児の生活アンケート報告書 ベネッセ次世代育成研究所  
[http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/research\\_13.html#link4](http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/research_13.html#link4)
- 2) 平成22年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書 財団法人日本学校保健会  
<http://www.gakkohoken.jp/modules/books/index.php?fct=photo&p=135>
- 3) Matsuishi T, et al. Scale properties of the Japanese version of the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ): a study of infant and school children in community samples. *Brain Dev.* 2008 30:410-5.
- 4) 川上憲人. 全国調査における K6 調査票による心の健康状態の分布と関連要因. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金(統計情報高度利用総合研究事業)国民の健康状況に関する統計情報を世帯面から把握・分析するシステムの検討に関する研究. 分担研究書
- 5) Stellman, et al. (2008) Enduring mental health morbidity and social function impairment in World Trade Center rescue, recovery, and cleanup workers: the psychological dimension of an environmental health disaster. *Environ.*

## II 支援結果概要

### 1 目的

平成23年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」回答者のうち、こころの健康度・生活習慣上、相談・支援の必要があると判断された方に、適切なケアを提供することを目的に、臨床心理士や保健師・看護師等による「こころの健康支援チーム」が電話等による相談や情報提供等を実施する。

### 2 こころの健康度への支援

#### 1)対象者

国が指定した避難区域等の住民の方で、生年月日が平成23年3月10日以前の方

#### 2)選定基準

- ・ ハイリスク  
子ども：問1（主観的健康感）で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、SDQ（子どもの行動）が20点以上  
一般：問1（主観的健康感）で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、K6（全般精神健康度）が20点以上またはPCL（トラウマ関連）が65点以上
- ・ 基準点超え  
子ども：問1で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、SDQ（子どもの行動）が16点以上19点以下  
一般：問1で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、K6が13点以上19点以下かつPCLが44点以上64点以下

#### 3)まとめ

- ・ 子ども  
子どもの要支援者は全体で1,363名であり、そのうちの1,180人（86.6%）の方に電話支援、183人（13.4%）の方に文書支援を行った。電話支援を行った方の684人（50.2%）が、医療機関につながっている、相談相手が身近にいる、問題に対して自身で適切に対応していることがわかった。また、電話支援の中で語られたものは、子どもの身体症状や、怒りや不安などといった情緒的問題、学校場面での困難などが多かった。
- ・ 一般  
一般の要支援者は全体で5,359名であり、そのうちの4,027人（75.1%）の方に電話支援、1,332人（24.9%）の方に文書支援を行った。電話支援の結果、医療機関につながっている、相談相手が身近にいる、問題に対して自身で適切に対応していることがわかった方は、ハイリスクでは1,760人（42.1%）、基準点超えでは807人（68.7%）であった。また、電話支援の中で語られた問題は、睡眠の乱れや身体症状、気持ちの落ち込みについてのものが多かった。

### 3 生活習慣への支援

#### 1)対象者

国が指定した避難区域等の住民の方：生年月日が平成7年4月1日以前の方（一般）

#### 2)選定基準

- 1) 睡眠障害のある方
- 2) メディカルコントロール（高血圧・糖尿病）がなされていない方
- 3) 精神疾患「あり」にチェックがあった方
- 4) 自覚症状について災害後悪化が明らかに多い方
- 5) 震災の影響により、過度の喫煙、または飲酒の認められる方
- 6) 調査用紙の欄外に明らかに精神的苦痛、生活困難があると判断される内容が記載されている方

#### 3)まとめ

要支援者数の男女の割合は、女性が55.9%と高かったが、こころの健康度・生活習慣に関する調査<sup>1)</sup>における有効回答(一般)の女性の割合も56.0%とほぼ同じ割合であり、要支援該当者に男女の偏りはなかった。一方、要支援者数の県外者の割合は24.9%と回答者の県外者の割合19.1%に比べ高かった。

電話支援状況の「支援基準該当あり」では、睡眠が最も割合が高かったが、そのうち73.9%の者が電話支援前に医療機関に通院中及び状況改善がみられていた。また、喫煙・飲酒は、電話支援前に解決している割合は低く、市町村との連携を通じ、健康づくりなど継続的な支援が必要であると思われる。

#### 参考資料

- 1)平成23年度県民健康管理調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」第11回検討委員会資料



平成 23 年度 県民健康管理調査

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

結果報告書

## 【 目 次 】

### 平成 23 年度 県民健康管理調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」 調査票別結果

子ども用①	.....	1
子ども用②	.....	4
子ども用③	.....	8
一 般 用	.....	13

### 平成 23 年度 県民健康管理調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」 調査票別資料

子ども用①	.....	25
子ども用②	.....	26
子ども用③	.....	27
一 般 用	.....	28

### 平成 23 年度 県民健康管理調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」 電話等による支援結果（第 10 回検討委員会資料「資料 4」抜粋）

共 通	.....	31
こ ころ	.....	35
生 活 習 慣	.....	41

## 平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（子ども用①）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(子ども用①)の対象 11,717 人のうち、有効回答は 7,818 人(66.7%)であった。内訳は、男児 3,969 人(50.8%)、女児 3,849 人(49.2%)で、平均年齢は 3.1 歳であった。

現住所は、県内 5,083 人(65.0%)、県外 2,735 人(35.0%)であった。

### 1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 1,612 人(20.7%)、「良好」が 2,789 人(35.9%)、「普通」が 3,210 人(41.2%)、「悪い」が 152 人(2.0%)、「きわめて悪い」が 13 人(0.2%)であった。

### 2. お子様震災で経験したことについて ※ 複数回答（問 2）

震災にて経験したことは、「地震」が 7,757 人、「津波」が 670 人、「原子力発電所事故」が 2,633 人、「いずれもなし」が 26 人であった。

### 3. 治療中の病気について（問 3）

治療中の病気は、「ない」が 6,472 人(83.3%)、「ある」が 1,297 人(16.7%)であった。

### 4. 入院の経験について（問 4）

入院の経験は、「ない」が 5,930 人(76.2%)、「ある」が 1,852 人(23.8%)であった。

### 5. 検査の経験について（問 5）

- 1) CT 検査の経験は、「ない」が 7,100 人(91.3%)、「ある」が 514 人(6.6%)、「わからない」が 162 人(2.1%)であった。
- 2) その他、X 線を使った検査の経験は、「ない」が 6,124 人(78.9%)、「ある」が 1,201 人(15.5%)、「わからない」が 437 人(5.6%)であった。  
「ある」と回答した人のうち、「透視検査」が 1,071 人、「血管造影」が 58 人、「核医学検査」が 19 人であった。

### 6. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 6）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が 7,609 人(97.9%)、「ある」が 14 人(0.2%)、「わからない」が 147 人(1.9%)であった。

### 7. 睡眠時間と昼寝の有無について（問 7）

- 1) 就寝時刻は、平均で午後 9 時 16 分であり、起床時刻は午前 7 時 00 分であった。睡眠時間は、平均で 9 時間 43 分であった。
- 2) 昼寝の有無(お子様はお昼寝をしますか)は、「いいえ」が 3,639 人(46.6%)、「はい」が 4,166 人(53.4%)であった。昼寝時間は、平均で 1 時間 47 分であった。

## 8. 食生活について（問8）

- 1) 母乳（お子様は母乳を飲んでますか）は、「はい」が424人（5.6%）、「いいえ」が7,130人（94.4%）であった。
- 2) 食品（飲料）を食べる（飲む）頻度（平成24年2月1日時点で1歳以上）は、表1のとおりであった。

表1 子ども用①の食品（飲料）を食べる（飲む）頻度（上段人数／下段割合）

		食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計
ごはん		5 (0.1%)	1 (0.0%)	15 (0.2%)	119 (1.6%)	445 (5.8%)	7,051 (92.3%)	7,636
パン		92 (1.2%)	1,044 (13.7%)	2,818 (37.1%)	2,026 (26.6%)	739 (9.7%)	889 (11.7%)	7,608
魚料理		107 (1.4%)	931 (12.3%)	3,625 (47.8%)	2,438 (32.1%)	367 (4.8%)	125 (1.6%)	7,593
肉類	とり肉	161 (2.1%)	1,525 (20.1%)	4,157 (54.8%)	1,538 (20.3%)	168 (2.2%)	41 (0.5%)	7,590
	牛肉、豚肉	216 (2.8%)	701 (9.2%)	3,420 (45.1%)	2,760 (36.3%)	414 (5.5%)	85 (1.1%)	7,596
	ハム、ソーセージ	252 (3.3%)	1,154 (15.3%)	3,153 (41.6%)	2,270 (30.0%)	543 (7.2%)	193 (2.6%)	7,565
野菜	緑の葉の野菜	489 (6.4%)	1,183 (15.6%)	2,591 (34.1%)	2,124 (27.9%)	701 (9.2%)	519 (6.8%)	7,607
	赤や黄色の野菜	111 (1.5%)	646 (8.5%)	2,194 (28.8%)	2,685 (35.2%)	1,181 (15.5%)	803 (10.5%)	7,620
	淡色野菜	161 (2.1%)	517 (6.8%)	1,868 (24.5%)	2,912 (38.3%)	1,303 (17.1%)	854 (11.2%)	7,615
	野菜ジュース	2,801 (36.7%)	2,337 (30.7%)	1,163 (15.3%)	676 (8.9%)	302 (4.0%)	334 (4.4%)	7,613
果物	くだもの	190 (2.5%)	774 (10.2%)	1,685 (22.1%)	2,150 (28.2%)	1,160 (15.2%)	1,659 (21.8%)	7,618
	果物ジュース	1,181 (15.5%)	1,902 (25.0%)	1,769 (23.3%)	1,319 (17.4%)	654 (8.6%)	772 (10.2%)	7,597
大豆	納豆	868 (11.4%)	1,756 (23.1%)	2,684 (35.2%)	1,478 (19.4%)	542 (7.1%)	290 (3.8%)	7,618
	味噌汁	167 (2.2%)	421 (5.5%)	1,011 (13.3%)	1,542 (20.2%)	1,503 (19.7%)	2,978 (39.1%)	7,622
	とうふ料理	278 (3.6%)	1,356 (17.8%)	2,895 (38.0%)	2,053 (26.9%)	715 (9.4%)	330 (4.3%)	7,627
	煮豆料理	3,126 (41.1%)	3,122 (41.1%)	1,015 (13.4%)	249 (3.3%)	59 (0.8%)	26 (0.3%)	7,597
牛乳		791 (10.4%)	549 (7.2%)	831 (10.9%)	1,009 (13.2%)	1,213 (15.9%)	3,224 (42.4%)	7,617
豆乳		6,161 (81.1%)	940 (12.4%)	279 (3.7%)	102 (1.3%)	63 (0.8%)	55 (0.7%)	7,600
ヨーグルト、乳酸菌飲料		211 (2.8%)	863 (11.3%)	1,882 (24.6%)	2,024 (26.5%)	1,203 (15.8%)	1,454 (19.0%)	7,637

## 9. 子どもの情緒と行動について（問9）

子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、震災時4歳以上の回答を集計した。有効回答3,427人のうち、16点<sup>※1</sup>以上が836人(24.4%)、20点<sup>※2</sup>以上が386人(11.3%)であった(図1)。平均総合得点は11.7点であった。

男児では有効回答1,755人のうち、16点以上が476人(27.1%)、20点以上が223人(12.7%)であり、女児では有効回答1,672人のうち、16点以上が360人(21.5%)、20点以上が163人(9.7%)であった(図2)。平均総合得点は男児では12.1点、女児では11.2点であった。

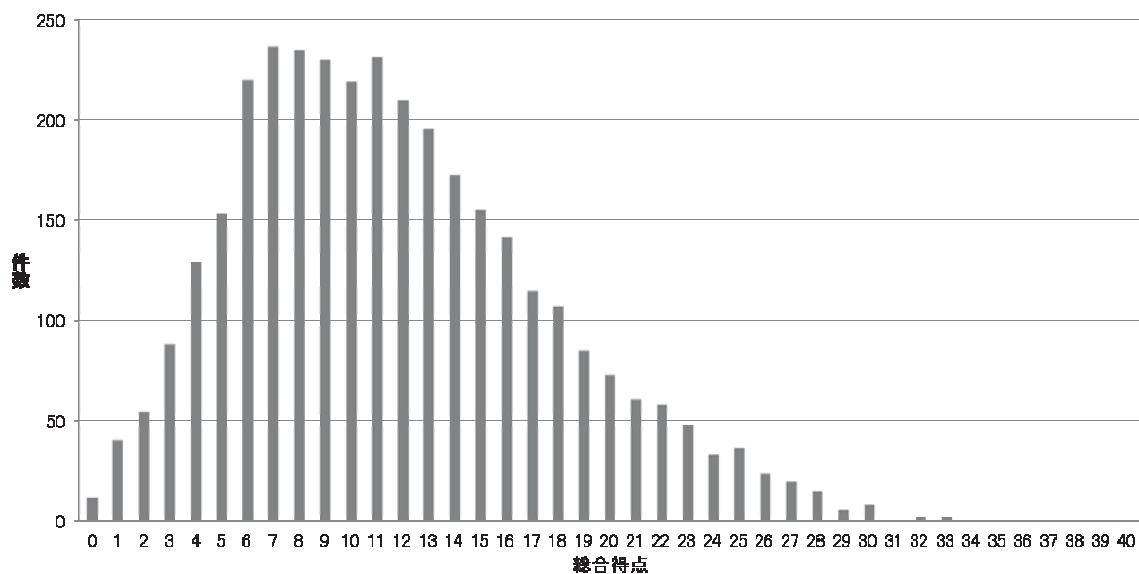


図1 子ども用①の子どもの情緒と行動(SDQ):全体

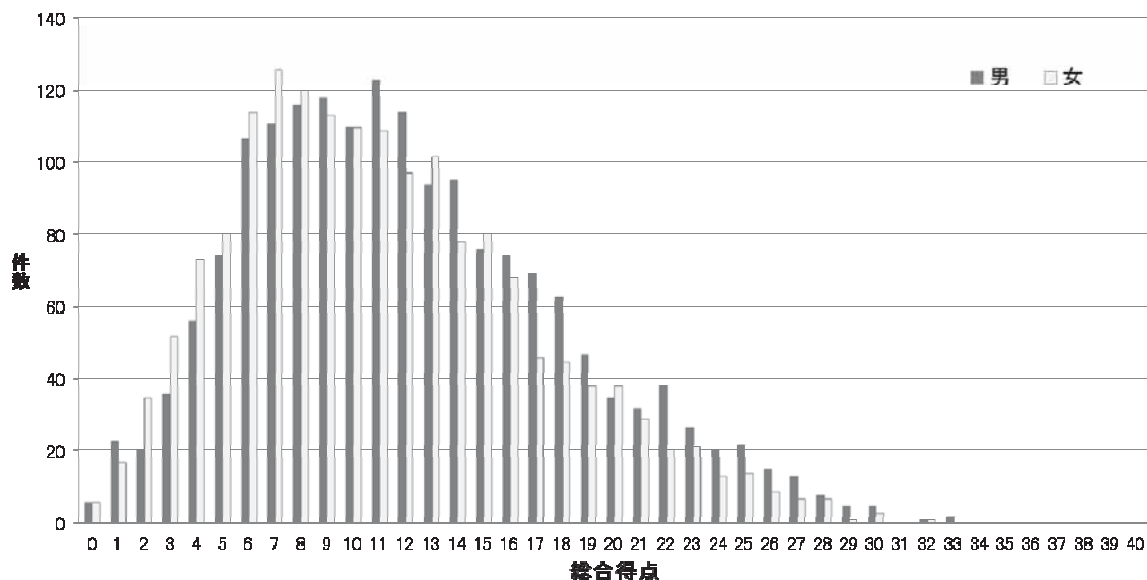


図2 子ども用①の子どもの情緒と行動(SDQ):男女別

※1 16点:先行研究で示されている基準

※2 20点:支援を行うために設けた基準

## 平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（子ども用②）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(子ども用②)の対象 11,791 人のうち、有効回答は 7,464 人(63.3%)であった。内訳は、男児 3,815 人(51.1%)、女児 3,649 人(48.9%)で、平均年齢は 9.5 歳であった。

現住所は、県内 5,404 人(72.4%)、県外 2,060 人(27.6%)であった。

### 1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 1,387 人(18.7%)、「良好」が 2,592 人(34.9%)、「普通」が 3,228 人(43.5%)、「悪い」が 190 人(2.6%)、「きわめて悪い」が 25 人(0.3%)であった。

### 2. お子様震災で経験したことについて ※ 複数回答（問 2）

震災にて経験したことは、「地震」が 7,387 人、「津波」が 873 人、「原子力発電所事故」が 2,953 人、「いずれもなし」が 25 人であった。

### 3. 治療中の病気について（問 3）

治療中の病気は、「ない」が 6,303 人(85.0%)、「ある」が 1,116 人(15.0%)であった。

### 4. 入院の経験について（問 4）

入院の経験は、「ない」が 5,454 人(73.5%)、「ある」が 1,971 人(26.5%)であった。

### 5. 検査の経験について（問 5）

- 1) CT 検査の経験は、「ない」が 6,046 人(81.5%)、「ある」が 1,029 人(13.9%)、「わからない」が 343 人(4.6%)であった。
- 2) その他、X 線を使った検査の経験は、「ない」が 5,605 人(76.2%)、「ある」が 1,194 人(16.2%)、「わからない」が 563 人(7.6%)であった。  
「ある」と回答した人のうち、「透視検査」が 1,072 人、「血管造影」が 68 人、「核医学検査」が 30 人であった。

### 6. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 6）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が 7,211 人(97.1%)、「ある」が 19 人(0.3%)、「わからない」が 195 人(2.6%)であった。

### 7. 睡眠時間について（問 7）

就寝時刻は、平均で午後 9 時 46 分であり、起床時刻は午前 6 時 23 分であった。睡眠時間は、平均で 8 時間 36 分であった。

## 8. 普段の運動量について（問8）

運動（普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか）は、「ほとんど毎日している」が 932 人（12.5%）、「週に 2～4 回している」が 1,495 人（20.1%）、「週 1 回程度している」が 1,075 人（14.4%）、「ほとんどしていない」が 3,950 人（53.0%）であった。

## 9. 食生活について（問9）

食品（飲料）を食べる（飲む）頻度は、表 2 のとおりであった。

表 2 子ども用②の食品(飲料)を食べる(飲む)頻度(上段人数/下段割合)

		食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計
ごはん		2 (0.0%)	2 (0.0%)	14 (0.2%)	138 (1.9%)	553 (7.4%)	6,750 (90.5%)	7,459
パン		91 (1.2%)	1,204 (16.2%)	2,968 (40.1%)	1,764 (23.8%)	639 (8.6%)	752 (10.1%)	7,418
魚料理		85 (1.1%)	912 (12.3%)	3,794 (51.2%)	2,258 (30.4%)	288 (3.9%)	81 (1.1%)	7,418
肉類	とり肉	63 (0.9%)	1,517 (20.5%)	4,091 (55.3%)	1,535 (20.7%)	166 (2.2%)	33 (0.4%)	7,405
	牛肉、豚肉	35 (0.5%)	395 (5.3%)	3,036 (40.8%)	3,260 (43.9%)	579 (7.8%)	129 (1.7%)	7,434
	ハム、ソーセージ	94 (1.3%)	1,435 (19.4%)	3,244 (43.9%)	2,020 (27.4%)	417 (5.7%)	169 (2.3%)	7,379
野菜	緑の葉の野菜	255 (3.4%)	1,175 (15.8%)	2,643 (35.5%)	2,096 (28.2%)	724 (9.7%)	550 (7.4%)	7,443
	赤や黄色の野菜	133 (1.8%)	920 (12.4%)	2,501 (33.6%)	2,452 (32.9%)	881 (11.8%)	559 (7.5%)	7,446
	淡色野菜	102 (1.4%)	448 (6.0%)	1,773 (23.8%)	2,914 (39.2%)	1,300 (17.5%)	901 (12.1%)	7,438
	野菜ジュース	3,591 (48.5%)	2,075 (28.0%)	849 (11.4%)	476 (6.4%)	179 (2.4%)	248 (3.3%)	7,418
果物	くだもの	203 (2.7%)	1,232 (16.6%)	2,242 (30.1%)	1,902 (25.6%)	817 (11.0%)	1,039 (14.0%)	7,435
	果物ジュース	1,901 (25.7%)	2,333 (31.5%)	1,587 (21.4%)	927 (12.5%)	338 (4.6%)	322 (4.3%)	7,408
大豆	納豆	939 (12.6%)	2,371 (31.9%)	2,640 (35.4%)	1,035 (13.9%)	287 (3.9%)	169 (2.3%)	7,441
	味噌汁	120 (1.6%)	356 (4.8%)	893 (12.0%)	1,531 (20.6%)	1,345 (18.1%)	3,202 (42.9%)	7,447
	とうふ料理	209 (2.8%)	1,426 (19.2%)	3,150 (42.2%)	1,866 (25.1%)	558 (7.5%)	236 (3.2%)	7,445
	煮豆料理	3,284 (44.3%)	3,058 (41.3%)	853 (11.5%)	166 (2.2%)	34 (0.5%)	13 (0.2%)	7,408
牛乳		212 (2.9%)	248 (3.3%)	326 (4.4%)	455 (6.1%)	1,587 (21.4%)	4,592 (61.9%)	7,420
豆乳		6,236 (84.2%)	843 (11.4%)	170 (2.3%)	89 (1.2%)	33 (0.4%)	39 (0.5%)	7,410
ヨーグルト、乳酸菌飲料		279 (3.7%)	1,107 (14.9%)	2,151 (28.8%)	1,867 (25.1%)	862 (11.6%)	1,184 (15.9%)	7,450



## 10. 子どもの情緒と行動について（問 10）

子どもの情緒と行動（子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版)）は、有効回答 7,450 人のうち、16 点<sup>※1</sup>以上が 1,637 人(22.0%)、20 点<sup>※2</sup>以上が 809 人(10.9%)であった(図 3)。平均総合得点は 11.0 点であった。

男児では有効回答 3,808 人のうち、16 点以上が 935 人(24.6%)、20 点以上が 479 人(12.6%)であり、女児では有効回答 3,642 人のうち、16 点以上が 702 人(19.3%)、20 点以上が 330 人(9.1%)であった(図 4)。平均総合得点は男児では 11.5 点、女児では 10.4 点であった。

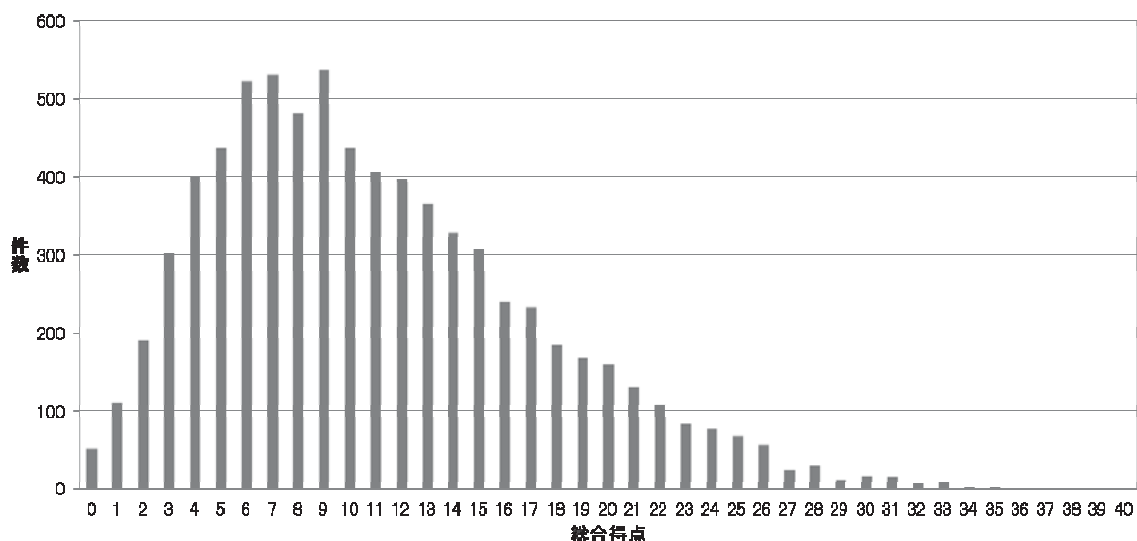


図 3 子ども用②の子どもの情緒と行動(SDQ):全体

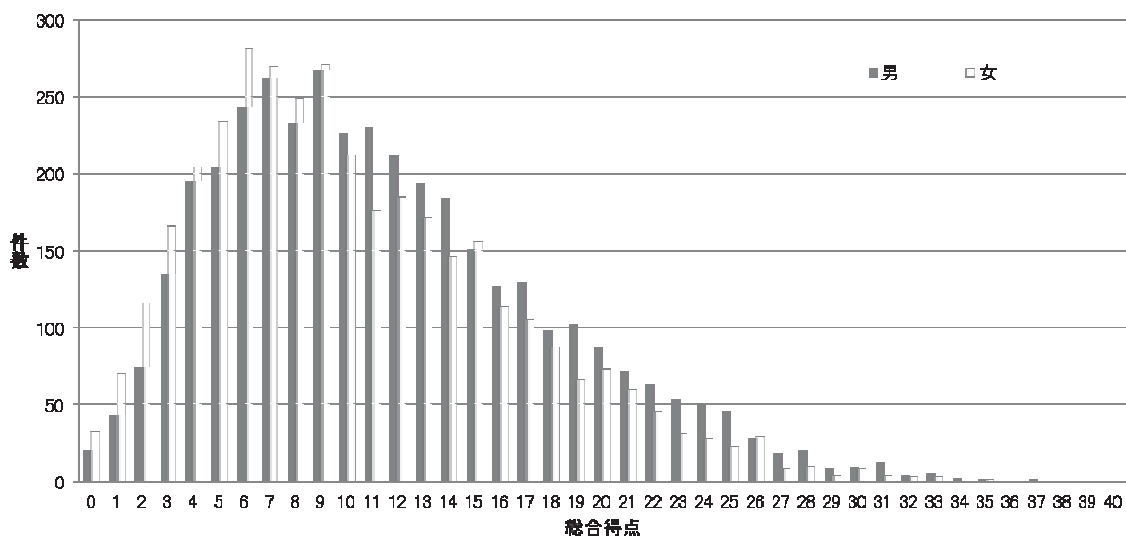


図 4 子ども用②の子どもの情緒と行動(SDQ):男女別

※1 16 点: 先行研究で示されている基準

※2 20 点: 支援を行うために設けた基準

## 平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（子ども用③）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(子ども用③)の対象 6,077 人のうち、有効回答は 3,411 人(56.1%)であった。内訳は、男子 1,717 人(50.3%)、女子 1,694 人(49.7%)で、平均年齢は 14.0 歳であった。

現住所は、県内 2,734 人(80.2%)、県外 677 人(19.8%)であった。

### 1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 557 人(22.4%)、「良好」が 679 人(27.3%)、「普通」が 1,139 人(45.7%)、「悪い」が 98 人(3.9%)、「きわめて悪い」が 18 人(0.7%)であった。

### 2. 自覚症状について（問 2）

自覚症状(ここ数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところがありますか)は、「はい」が 983 人(39.6%)、「いいえ」が 1,499 人(60.4%)であった。

どのような症状がみられているかについては表 3、また災害後悪化した症状については表 4 のとおりであった。

表 3 子ども用③の自覚症状の内容(複数回答)

	人数		人数		人数
いらいらしやすい	432	手足の関節が痛む	116	動悸	33
頭痛	376	かゆみ (湿疹・水虫など)	106	歯ぐきのはれ・出血	33
腹痛・胃痛	327	足のむくみやだるさ	88	痔による痛み・ 出血など	19
せきやたんが出る	228	切り傷・ やけどなどのけが	85	かみにくい	9
月経不順・月経痛	166	食欲不振	73	尿失禁(尿がもれる)	6
便秘	151	歯が痛い	70	尿が出にくい・ 排尿時痛い	2
腰痛	151	骨折・ねんざ・脱臼	60	その他	119
めまい	143	息切れ	38		
下痢	134	ゼイゼイする	36		

表 4 子ども用③の災害後悪化した症状(複数回答)

	人数		人数		人数
いらいらしやすい	97	せきやたんが出る	14	骨折・ねんざ・脱臼	5
腹痛・胃痛	57	腰痛	13	切り傷・ やけどなどのけが	3
頭痛	47	動悸	12	かみにくい	2
月経不順・月経痛	33	手足の関節が痛む	11	歯ぐきのはれ・出血	2
便秘	27	息切れ	10	尿失禁(尿がもれる)	1
めまい	27	歯が痛い	6	尿が出にくい・ 排尿時痛い	0
下痢	23	足のむくみやだるさ	6	その他	16
かゆみ (湿疹・水虫など)	16	ゼイゼイする	6		
食欲不振	14	痔による痛み・ 出血など	5		

### 3. 睡眠について (問 3)

睡眠時間は、平均で 6 時間 53 分であった。

### 4. 運動について (問 4)

運動(普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか)は、「ほとんど毎日している」が 755 人(30.2%)、「週に 2~4 回している」が 349 人(14.0%)、「週 1 回程度している」が 221 人(8.8%)、「ほとんどしていない」が 1,176 人(47.0%)、であった。

## 5. 食生活について（問5）

食品（飲料）を食べる（飲む）頻度は、表5のとおりであった。

表5 子ども用③の食品（飲料）を食べる（飲む）頻度（上段人数／下段割合）

		食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計
ごはん		0 (0.0%)	5 (0.2%)	16 (0.6%)	53 (2.1%)	200 (8.0%)	2,224 (89.1%)	2,498
パン		80 (3.2%)	443 (17.8%)	926 (37.2%)	529 (21.3%)	223 (9.0%)	286 (11.5%)	2,487
魚料理		52 (2.1%)	353 (14.2%)	1,195 (48.1%)	748 (30.1%)	81 (3.3%)	54 (2.2%)	2,483
肉類	とり肉	29 (1.2%)	471 (19.0%)	1,271 (51.3%)	579 (23.4%)	100 (4.0%)	27 (1.1%)	2,477
	牛肉、豚肉	23 (0.9%)	184 (7.4%)	975 (39.1%)	975 (39.1%)	260 (10.5%)	76 (3.0%)	2,493
	ハム、ソーセージ	81 (3.3%)	553 (22.3%)	955 (38.5%)	589 (23.8%)	192 (7.7%)	110 (4.4%)	2,480
野菜	緑の葉の野菜	89 (3.6%)	359 (14.4%)	745 (29.9%)	679 (27.2%)	314 (12.6%)	308 (12.3%)	2,494
	赤や黄色の野菜	61 (2.4%)	275 (11.0%)	747 (30.0%)	766 (30.8%)	362 (14.5%)	283 (11.3%)	2,494
	淡色野菜	30 (1.2%)	132 (5.3%)	517 (20.8%)	865 (34.7%)	503 (20.2%)	444 (17.8%)	2,491
	野菜ジュース	1,281 (51.5%)	552 (22.2%)	289 (11.6%)	154 (6.2%)	99 (4.0%)	113 (4.5%)	2,488
果物	くだもの	167 (6.7%)	542 (21.8%)	722 (29.0%)	529 (21.2%)	262 (10.5%)	269 (10.8%)	2,491
	果物ジュース	631 (25.4%)	650 (26.2%)	556 (22.4%)	319 (12.8%)	168 (6.8%)	160 (6.4%)	2,484
大豆	納豆	617 (24.8%)	835 (33.5%)	633 (25.4%)	249 (10.0%)	90 (3.6%)	66 (2.7%)	2,490
	味噌汁	83 (3.3%)	184 (7.4%)	294 (11.8%)	426 (17.1%)	441 (17.7%)	1,067 (42.7%)	2,495
	とうふ料理	142 (5.7%)	550 (22.0%)	826 (33.1%)	636 (25.5%)	216 (8.7%)	125 (5.0%)	2,495
	煮豆料理	1,177 (47.4%)	883 (35.5%)	317 (12.8%)	69 (2.8%)	26 (1.0%)	13 (0.5%)	2,485
牛乳		322 (12.9%)	238 (9.6%)	238 (9.6%)	229 (9.2%)	472 (19.0%)	990 (39.7%)	2,489
豆乳		2,065 (83.0%)	257 (10.3%)	62 (2.5%)	42 (1.7%)	29 (1.2%)	32 (1.3%)	2,487
ヨーグルト、乳酸菌飲料		232 (9.3%)	473 (18.9%)	677 (27.1%)	482 (19.3%)	244 (9.8%)	390 (15.6%)	2,498

## 6. お子様が震災で経験したことについて ※ 複数回答（問 6）

震災にて経験したことは、「地震」が2,355人、「津波」が305人、「原子力発電所事故」が1,018人、「いずれもなし」が6人であった。

## 7. 治療中の病気について（問 7）

治療中の病気は、「ない」が2,838人(85.2%)、「ある」が492人(14.8%)であった。

## 8. 入院の経験について（問 8）

入院の経験は、「ない」が2,621人(78.8%)、「ある」が704人(21.2%)であった。

## 9. 検査の経験について（問 9）

- 1) CT検査の経験は、「ない」が2,597人(78.0%)、「ある」が605人(18.2%)、「わからない」が126人(3.8%)であった。
- 2) その他、X線を使った検査の経験は、「ない」が2,524人(76.7%)、「ある」が544人(16.5%)、「わからない」が223人(6.8%)であった。  
「ある」と回答した人のうち、「透視検査」が469人、「血管造影」が34人、「核医学検査」が12人であった。

## 10. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 10）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が3,253人(97.4%)、「ある」が7人(0.2%)、「わからない」が79人(2.4%)であった。

### 11. 子どもの情緒と行動について（問 11）

子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答 3,332 人のうち、16 点以上が 539 人(16.2%)、20 点以上が 256 人(7.7%)であった(図 5)。平均総合得点は 9.7 点であった。

男子では有効回答 1,681 人のうち、16 点以上が 266 人(15.8%)、20 点以上が 123 人(7.3%)であり、女子では有効回答 1,651 人のうち、16 点以上が 273 人(16.5%)、20 点以上が 133 人(8.1%)であった(図 6)。平均総合得点は男子では 9.5 点、女子では 9.8 点であった。

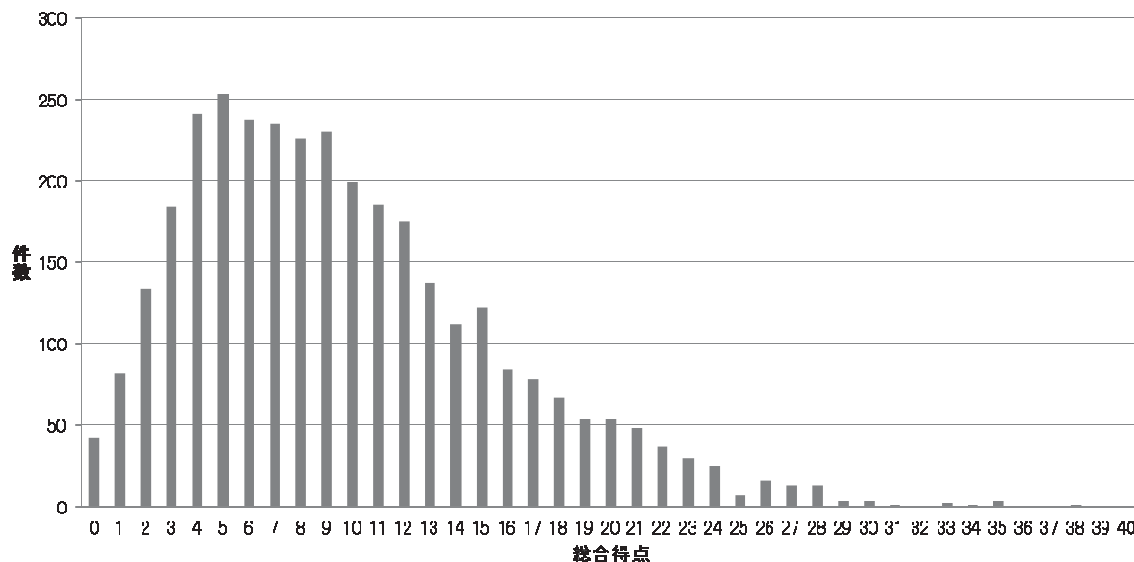


図 5 子ども用③の子どもの情緒と行動(SDQ)：全体

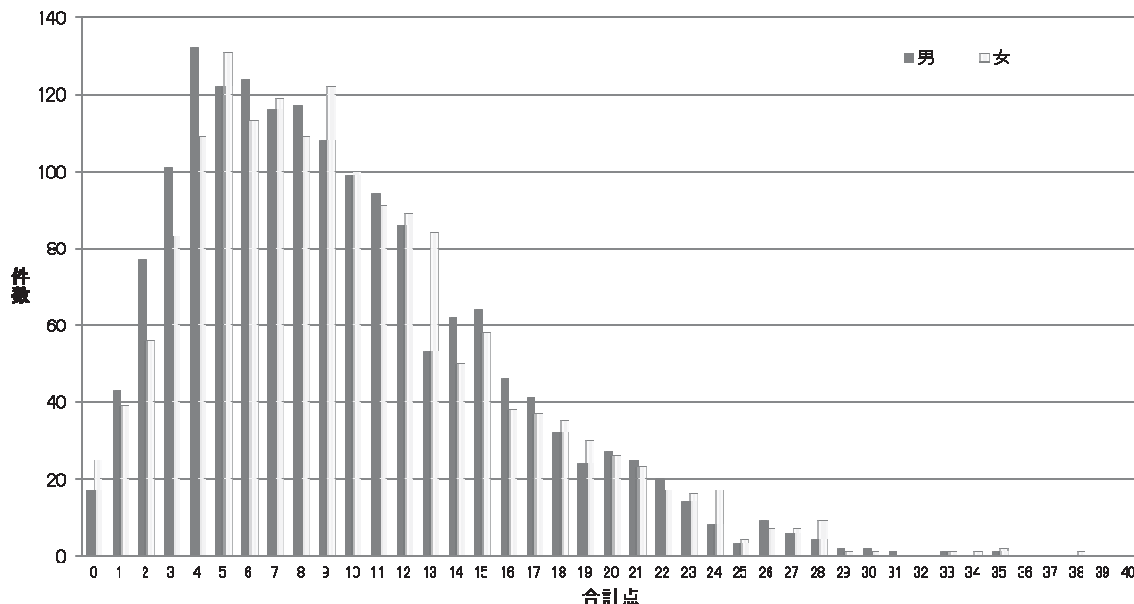


図 6 子ども用③の子どもの情緒と行動(SDQ)：男女別

- ※1 16 点：先行研究で示されている基準
- ※2 20 点：支援を行うために設けた基準

## 平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）の対象 180,604 人のうち、有効回答は 73,433 人（40.7%）であった。内訳は、男性 32,301 人（44.0%）、女性 41,132 人（56.0%）で、平均年齢は 55.5 歳であった。

現住所は、県内 59,435 人（80.9%）、県外 13,998 人（19.1%）であった。

### 1. 健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 2,667 人（4.2%）、「良好」が 8,533 人（13.6%）、「普通」が 39,972 人（63.7%）、「悪い」が 10,499 人（16.7%）、「きわめて悪い」が 1,116 人（1.8%）であった。

### 2. 既往歴について（問 2）

既往歴（今まで、次のような病気にかかっていると医師に診断されたことがありますか）は、表 6 のとおりであった。

表 6 一般用の傷病別の診断経験および通院状況(上段人数/下段割合)

傷病名	有効 回答数	診断された経験		現在の通院状況	
		ない	ある	はい	いいえ
高血圧 (または、血圧が高い)	71,984	41,405 (57.5%)	30,579 (42.5%)	23,560 (78.4%)	6,479 (21.6%)
糖尿病 (または、血糖が高い)	70,722	56,725 (80.2%)	13,997 (19.8%)	6,657 (48.4%)	7,092 (51.6%)
高脂血症 (または、コレステロールや中性脂肪が高い)	70,881	46,097 (65.0%)	24,784 (35.0%)	12,119 (50.3%)	11,980 (49.7%)
がん (白血病やリンパ腫を含む)	70,303	66,863 (95.1%)	3,440 (4.9%)		
脳卒中	70,743	66,889 (94.6%)	3,854 (5.4%)		
(脳卒中の種類) 複数回答					
脳こうそく			2,278		
脳出血			457		
くも膜下出血			338		
その他			314		
わからない			600		
心臓病	70,859	63,584 (89.7%)	7,275 (10.3%)		
(心臓病の種類) 複数回答					
心筋梗塞			1,096		
狭心症			2,398		
その他			2,928		
わからない			1,122		
慢性肝炎	70,473	68,856 (97.7%)	1,617 (2.3%)		
(慢性肝炎の種類) 複数回答					
B 型肝炎			377		
C 型肝炎			518		
その他			687		
肺炎 (この 10 年くらいの間で)	70,554	68,122 (96.6%)	2,432 (3.4%)		
50 歳以後の骨折 (震災時 50 歳以上の回答を集計)	45,969	40,705 (88.5%)	5,264 (11.5%)		
甲状腺疾患	70,431	68,084 (96.7%)	2,347 (3.3%)		
(甲状腺疾患種類)					
甲状腺機能亢進症(バセドウ病)			588		
甲状腺機能低下症			674		
その他			877		
精神疾患	69,978	65,822 (94.1%)	4,156 (5.9%)		



### 3. 検査の経験について（問3）

- 1) CT検査の経験は、「ない」が37,849人(52.4%)、「ある」が31,566人(43.8%)、「わからない」が2,729人(3.8%)であった。
- 2) 透視検査の経験は、「ない」が26,293人(36.5%)、「ある」が44,300人(61.6%)、「わからない」が1,383人(1.9%)であった。
- 3) その他、血管造影検査、核医学検査、PET検査のいずれか経験は、「ない」が59,471人(83.6%)、「ある」が8,289人(11.6%)、「わからない」が3,428人(4.8%)であった。  
「ある」と回答した人のうち、「血管造影検査」が5,801人、「核医学検査」が669人、「PET検査」が1,481人であった。

### 4. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問4）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が68,089人(94.9%)、「ある」が1,293人(1.8%)、「わからない」が2,393人(3.3%)であった。

### 5. 自覚症状について（問5）

自覚症状(ここ数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところがありますか)は、「はい」が37,878人(59.8%)、「いいえ」が25,468人(40.2%)であった。

「はい」と回答した人のうち、症状の内訳は表7、また災害後悪化した症状は表8のとおりであった。

表7 一般用の自覚症状の内容(複数回答)

	人数		人数		人数
腰痛	16,103	足のむくみやだるさ	6,504	痔による痛み・出血など	2,398
いらいらしやすい	15,032	動悸	5,504	ゼイゼイする	2,071
頭痛	12,192	歯が痛い	4,729	かみにくい	1,986
手足の関節が痛む	10,116	歯ぐきのはれ・出血	4,723	尿が出にくい・排尿時痛い	1,601
便秘	8,749	息切れ	4,679	切り傷・やけどなどのけが	1,507
せきやたんが出る	7,925	下痢	3,821	骨折・ねんざ・脱臼	1,352
かゆみ (湿疹・水虫など)	7,456	尿失禁(尿がもれる)	3,504	その他	3,706
腹痛・胃痛	7,386	食欲不振	2,869		
めまい	7,371	月経不順・月経痛	2,736		

表 8 一般用の災害後悪化した症状(複数回答)

	人数		人数		人数
いらいらしやすい	3,524	かゆみ (湿疹・水虫など)	874	尿失禁(尿がもれる)	364
腰痛	2,283	せきやたんが出る	798	ゼイゼイする	225
頭痛	1,741	月経不順・月経痛	670	かみにくい	199
手足の関節が痛む	1,546	歯ぐきのはれ・出血	630	尿が出にくい・ 排尿時痛い	172
腹痛・胃痛	1,166	歯が痛い	587	骨折・ねんざ・脱臼	147
便秘	1,135	息切れ	529	切り傷・ やけどなどのけが	57
めまい	1,123	食欲不振	473	その他	680
動悸	975	下痢	441		
足のむくみやだるさ	888	痔による痛み・ 出血など	371		

## 6. 日常生活機能について (問 6)

- 1) 日常生活機能(それぞれの行為について、ひとりでできるかどうかをお答えください)は、表 9 のとおりであった。

表 9 一般用の日常生活機能(人数(割合))

日常生活での行為	ひとりで できる	ひとりでは できない	有効回答数
1. 介助なしに食事をする(食事のしたくは含まない)	70,950(98.7%)	952 (1.3%)	71,902
2. 介助なしに衣服の着替えをする	70,314 (97.9%)	1,537 (2.1%)	71,851
3. 介助なしにトイレで用をたす	70,615 (98.3%)	1,219 (1.7%)	71,834
4. 日用品の買い物をする	67,390 (93.9%)	4,358 (6.1%)	71,748

- 2) レクリエーション活動(レクリエーション活動(カラオケやゲートボール等)や地域の仕事(お祭り等)へ参加することがありますか)は、「ない、めったにない」が 46,291 人(64.8%)、「ときどき参加する」が 19,424 人(27.2%)、「よく参加する」が 5,678 人(8.0%)であった。

## 7. 睡眠について（問7）

- 1) 睡眠満足度は、「満足している」が17,587人(33.3%)、「少し不満」が24,675人(46.8%)、「かなり不満」が8,180人(15.5%)、「非常に不満か、全く眠れなかった」が2,312人(4.4%)であった。
- 2) 睡眠に関する経験(以下の経験が少なくとも週3回以上ありましたか)は、表10のとおりであった。

表10 一般用の睡眠に関する経験(人数(割合))

	ある	ない	有効回答数
1. 夜、床に入ってから寝つくまでの時間がかかる	27,001 (44.9%)	33,078 (55.1%)	60,079
2. 夜間、睡眠途中で目が覚める	38,655 (63.9%)	21,865 (36.1%)	60,520
3. 希望する起床時刻より早く目覚め、それ以上眠れない	22,633 (38.6%)	35,927 (61.4%)	58,560
4. 総睡眠時間が不足する	23,393 (40.5%)	34,312 (59.5%)	57,705
5. 日中の気分がめいる	17,941 (31.6%)	38,913(68.4%)	56,854
6. 日中の身体的および精神的な活動が低下する	19,409 (33.7%)	38,164 (66.3%)	57,573
7. 日中の眠気	29,583 (50.6%)	28,864 (49.4%)	58,447

## 8. 喫煙について（問8）

- 1) 喫煙(タバコ(紙巻きタバコ)を吸いますか?葉巻やパイプは除きます。)は、「吸ったことがない」が40,375人(57.0%)、「やめた」が15,827人(22.3%)、「吸っている」が14,643人(20.7%)であった。  
「吸っている」と回答した人のうち、平均1日本数は16.0本、平均喫煙年数は25.8年であった。
- 2) 受動喫煙(この10年ほどの間に、家庭や職場などで人が吸ったタバコの煙を吸わされることがありましたか?)は、「毎日」が16,190人(25.3%)、「週4-5日程度」が6,101人(9.5%)、「ときどき」が21,940人(34.2%)、「めったにない」が19,880人(31.0%)であった。
- 3) 震災以前の喫煙(平成23年3月11日の震災以前に、タバコを吸っていましたか?)は、「吸っていなかった」が50,588人(75.6%)、「吸っていた」が16,290人(24.4%)であった。

## 9. 飲酒について（問9）

1) 飲酒（お酒（アルコール飲料）を飲みますか）は、「飲まない、または、ほとんど飲まない」が 37,286 人（52.1%）、「やめた」が 2,720 人（3.8%）、「飲む（月に 1 回以上）」が 31,532 人（44.1%）であった。

「飲む（月に 1 回以上）」と回答した人のうち、種類別に飲む頻度は表 11 のとおりであった。1 日あたりの平均飲酒量は、エタノール重量に換算すると 26.3g であり、ビール大瓶 1 本（25.3g）と同程度であった。多量飲酒者（1 日にエタノール重量 43.2g（日本酒 2 合）以上）は、飲酒（問 9）の有効回答者 71,538 人のうち 6,853 人（9.6%）であった。

2) 震災以前の飲酒は、「飲んでいなかった、またはほとんど飲んでいなかった（月に 1 回未満）」が 39,847 人（58.0%）、「飲んでいた（月に 1 回以上）」が 28,858 人（42.0%）であった。

表 11 一般用の種類別の飲酒頻度（上段人数／下段割合）

お酒の種類		飲まない	飲む頻度（当てはまるもの 1 つに✓）					計
			週に 1 回未満	週に 1-2 回	週に 3-4 回	週に 5-6 回	毎日	
ビール	大瓶	7,587 (69.0%)	1,108 (10.1%)	603 (5.5%)	364 (3.3%)	272 (2.5%)	1,058 (9.6%)	10,992
	中瓶・中缶	5,776 (39.7%)	2,219 (15.3%)	1,868 (12.8%)	1,311 (9.0%)	824 (5.7%)	2,552 (17.5%)	14,550
	小瓶・小缶	5,388 (35.4%)	3,052 (20.1%)	2,163 (14.2%)	1,413 (9.3%)	829 (5.5%)	2,355 (15.5%)	15,200
日本酒		7,798 (46.2%)	2,935 (17.4%)	1,757 (10.4%)	1,170 (6.9%)	768 (4.6%)	2,447 (14.5%)	16,875
焼酎		5,893 (30.7%)	3,180 (16.5%)	2,258 (11.7%)	1,739 (9.0%)	1,362 (7.1%)	4,814 (25.0%)	19,246
ワイン		8,323 (64.1%)	2,851 (22.0%)	979 (7.6%)	384 (3.0%)	147 (1.1%)	280 (2.2%)	12,964
洋酒※	シングル	9,956 (85.6%)	846 (7.3%)	333 (2.9%)	165 (1.4%)	73 (0.6%)	254 (2.2%)	11,627
	ダブル	10,242 (89.7%)	475 (4.2%)	232 (2.0%)	103 (0.9%)	83 (0.7%)	282 (2.5%)	11,417

※ ウイスキーやブランデー等

## 10. 食生活について（問 10）

食品（飲料）を食べる（飲む）頻度は、表 12 のとおりであった。

表 12 一般用の食品（飲料）を食べる（飲む）頻度（上段人数／下段割合）

		食べ ない	週に 1 回未満	週に 1-2 回	週に 3-4 回	週に 5-6 回	毎日	計
ごはん		272 (0.4%)	216 (0.3%)	719 (1.0%)	2,522 (3.5%)	5,155 (7.1%)	63,730 (87.7%)	72,614
パン		7,485 (11.0%)	19,724 (29.1%)	19,086 (28.1%)	9,702 (14.3%)	3,675 (5.4%)	8,224 (12.1%)	67,896
魚料理		1,144 (1.6%)	8,318 (11.6%)	23,601 (32.9%)	24,993 (34.8%)	6,611 (9.2%)	7,086 (9.9%)	71,753
肉 類	とり肉	4,473 (6.5%)	20,517 (29.8%)	30,380 (44.1%)	11,378 (16.5%)	1,383 (2.0%)	756 (1.1%)	68,887
	牛肉、豚肉	2,635 (3.7%)	13,022 (18.4%)	30,601 (43.2%)	20,286 (28.6%)	3,117 (4.4%)	1,183 (1.7%)	70,844
	ハム、ソーセージ	6,334 (9.2%)	24,127 (34.9%)	24,604 (35.6%)	10,512 (15.2%)	2,063 (3.0%)	1,416 (2.1%)	69,056
野 菜	緑の葉の野菜	1,659 (2.3%)	9,178 (12.8%)	19,273 (26.8%)	20,193 (28.2%)	9,087 (12.6%)	12,464 (17.3%)	71,854
	赤や黄色の野菜	1,414 (2.0%)	9,672 (13.5%)	21,047 (29.3%)	21,329 (29.7%)	8,920 (12.4%)	9,374 (13.1%)	71,756
	淡色野菜	610 (0.8%)	4,467 (6.2%)	14,257 (19.9%)	23,693 (33.0%)	13,223 (18.4%)	15,556 (21.7%)	71,806
	野菜ジュース	32,234 (46.7%)	18,246 (26.4%)	8,699 (12.6%)	4,457 (6.5%)	1,885 (2.7%)	3,485 (5.1%)	69,006
果 物	くだもの	5,629 (7.9%)	14,394 (20.1%)	16,236 (22.7%)	13,653 (19.1%)	7,158 (10.0%)	14,453 (20.2%)	71,523
	果物ジュース	28,103 (41.5%)	20,659 (30.4%)	10,556 (15.5%)	4,853 (7.1%)	1,594 (2.3%)	2,179 (3.2%)	67,944
大 豆	納豆	7,142 (10.0%)	14,271 (20.0%)	19,723 (27.7%)	14,654 (20.5%)	6,195 (8.7%)	9,368 (13.1%)	71,353
	味噌汁	1,998 (2.8%)	4,327 (6.0%)	7,423 (10.3%)	11,059 (15.3%)	9,881 (13.7%)	37,502 (51.9%)	72,190
	とうふ料理	2,189 (3.1%)	11,749 (16.4%)	22,202 (31.0%)	20,182 (28.2%)	8,465 (11.8%)	6,811 (9.5%)	71,598
	煮豆料理	21,302 (30.6%)	27,841 (39.9%)	12,308 (17.7%)	5,022 (7.2%)	1,649 (2.4%)	1,545 (2.2%)	69,667
牛乳		19,590 (27.9%)	12,385 (17.6%)	10,166 (14.5%)	8,360 (11.9%)	4,495 (6.4%)	15,255 (21.7%)	70,251
豆乳		50,550 (74.4%)	9,864 (14.5%)	3,196 (4.7%)	1,812 (2.7%)	806 (1.2%)	1,702 (2.5%)	67,930
ヨーグルト、乳酸菌飲料		11,552 (16.2%)	14,626 (20.5%)	13,721 (19.2%)	10,969 (15.4%)	5,646 (7.9%)	14,783 (20.8%)	71,297

### 11. 運動について（問 11）

運動は、「ほとんど毎日している」が 10,581 人(14.9%)、「週に 2~4 回している」が 14,402 人(20.3%)、「週 1 回程度している」が 9,905 人(13.9%)、「ほとんどしていない」が 36,229 人(50.9%)であった。

### 12. 全般的な精神健康状態について（問 12）

全般的な精神健康状態(K6)は、有効回答 59,807 人のうち、13 点<sup>\*1</sup>以上が 8,717 人(14.6%)、20 点<sup>\*2</sup>以上が 1,954 人(3.3%)であった(図 7)。平均点は 6.3 点であった。

男性では有効回答 26,321 人のうち、13 点以上が 3,133 人(11.9%)、20 点以上が 670 人(2.5%)であり、女性では有効回答 33,486 人のうち、13 点以上が 5,584 人(16.7%)、20 点以上が 1,284 人(3.8%)であった(図 8)。男性の平均点は 5.5 点、女性の平均点は 6.8 点であった。

年齢階級別は、表 13 のとおりである。

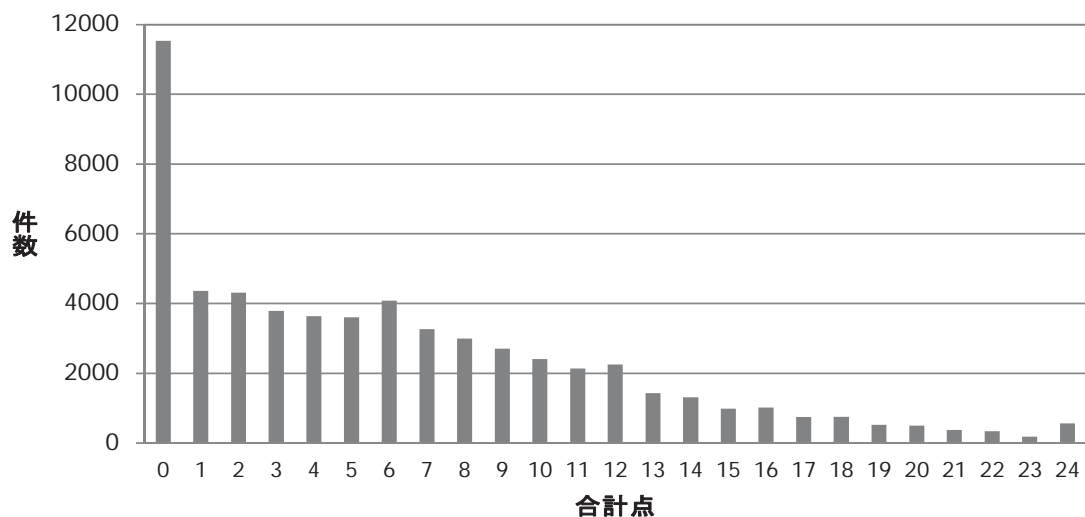


図 7 一般用 全般的な精神健康状態(K6):全体

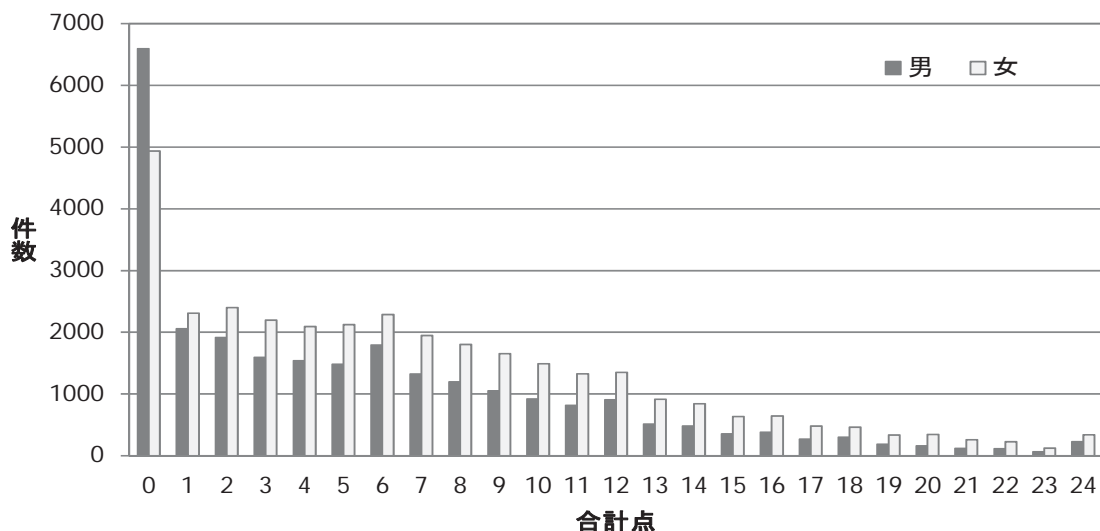


図 8 一般用 全般的な精神健康状態(K6):男女別

表 13 一般用の全般的な精神健康状態(K6):年齢階級別 (人数(割合))

	13 点以上	20 点以上	有効回答数
10 代	197 (9.8%)	38 (1.9%)	2,020
20 代	720 (14.4%)	155 (3.1%)	5,004
30 代	1,176 (14.0%)	261 (3.1%)	8,423
40 代	1,135 (14.6%)	265 (3.4%)	7,756
50 代	1,727 (14.9%)	337 (2.9%)	11,557
60 代	1,969 (14.6%)	442 (3.3%)	13,494
70 代以上	1,793 (15.5%)	456 (3.9%)	11,553

※1 13 点: 先行研究で示されている基準

※2 20 点: 支援を行うために設けた基準

### 13. ト라우マ反応について (問 13)

トラウマ反応(PCL)は、有効回答 60,704 人のうち、44 点<sup>※3</sup>以上が 13,111 人(21.6%)、65 点<sup>※4</sup>以上が 2,791 人(4.6%)であった(図 9)。平均点は 33.0 点であった。

男性では有効回答 26,752 人のうち、44 点以上が 4,864 人(18.2%)、65 点以上が 1,041 人(3.9%)であり、女性では有効回答 33,952 人のうち、44 点以上が 8,247 人(24.3%)、65 点以上が 1,750 人(5.2%)であった(図 10)。男性の平均点は 31.2 点、女性の平均点は 34.4 点であった。

年齢階級別は、表 14 のとおりである。

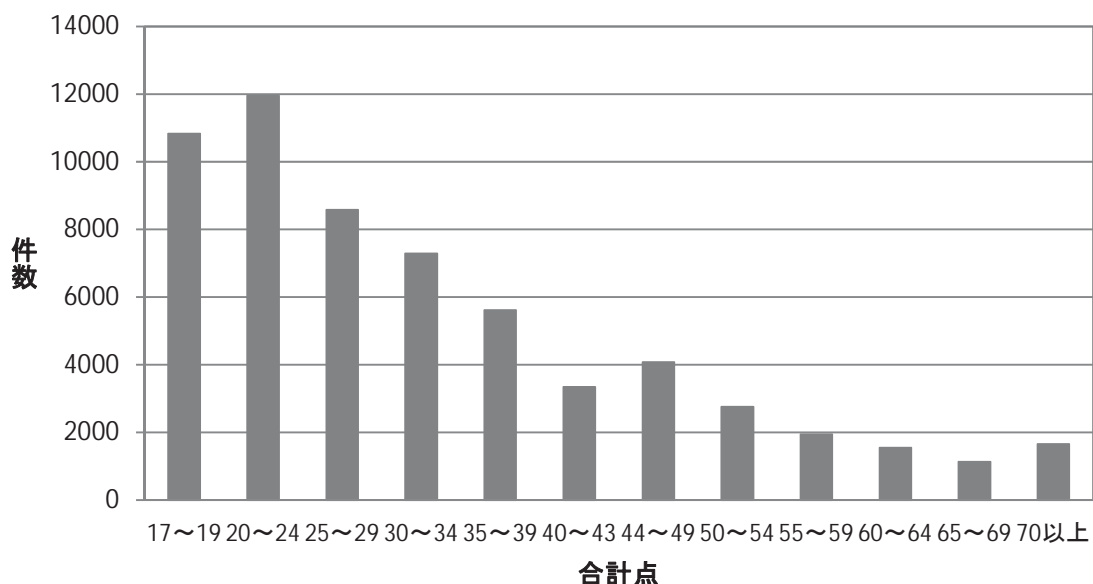


図 9 一般用のトラウマ反応(PCL): 全体

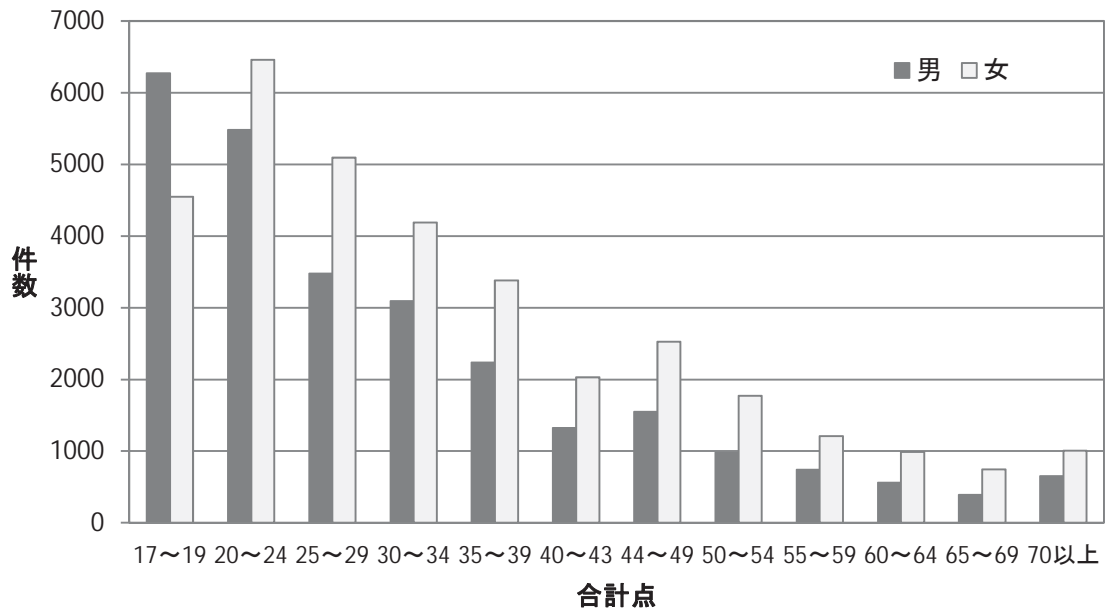


図 10 一般用のトラウマ反応 (PCL) : 男女別

表 14 一般用のトラウマ反応 (PCL) : 年齢階級別 (人数 (割合))

	44 点以上	65 点以上	有効回答数
10 代	201 (9.9%)	25 (1.2%)	2,029
20 代	904 (18.0%)	182 (3.6%)	5,031
30 代	1,579 (18.6%)	282 (3.3%)	8,476
40 代	1,477 (18.9%)	322 (4.1%)	7,803
50 代	2,317 (19.9%)	443 (3.8%)	11,653
60 代	3,228 (23.3%)	666 (4.8%)	13,835
70 代以上	3,405 (28.7%)	871 (7.3%)	11,877

※3 44 点: 先行研究で示されている基準

※4 65 点: 支援を行うために設けた基準



### 14. 震災で経験したことについて（問 14）

- 1) 震災にて経験したこと(複数回答)は、「地震」が 69,700 人、「津波」が 14,757 人、「原子力発電所事故」が 38,392 人、「いずれもなし」が 1,095 人であった。
- 2) 震災による行政の家屋被害認定結果は、「被害なし」が 18,551 人(27.3%)、「一部損壊」が 38,485 人(56.5%)、「半壊」が 5,225 人(7.7%)、「大規模半壊」が 1,963 人(2.9%)、「全壊」が 3,832 人(5.6%)であった。
- 3) 震災による死別体験(今回の震災で、身近な人を亡くされましたか。)は、「はい」が 14,091 人(19.9%)、「いいえ」が 56,670 人(80.1%)であった。  
「はい」と回答した人の死別人数は、「1～3 人」が 10,272 人(79.2%)、「4～6 人」が 1,802 人(13.9%)、「7～9 人」が 391 人(3.0%)、「10 人以上」が 511 人(3.9%)であった。
- 4) 現在の住まい(震災によってお住まいはどのように変わりましたか)は、複数回答 717 人を除外すると、「避難所」が 734 人(1.3%)、「仮設住宅」が 6,896 人(12.0%)、「借家・アパート」が 22,947 人(40.0%)、「親戚宅」が 2,460 人(4.3%)、「持家」が 21,459 人(37.5%)、「その他」が 2,778 人(4.9%)であった。
- 5) 仕事の状況(震災や原発事故によってお仕事の状況は変わりましたか)は、「変わった」が 36,507 人(54.0%)、「変わらない」が 31,133 人(46.0%)であった。  
「変わった」と回答した人のうち、どのように変わったか(複数回答)については、「無職だったが新しく仕事を始めた」が 1,261 人、「失業した」が 14,241 人、「転職した」が 2,807 人、「稼ぎが増えた」が 869 人、「稼ぎが減った」が 12,952 人、「その他」が 12,090 人であった。

### 15. 放射線の健康影響についての認識について（問 15）

放射線の健康影響についての認識は、表 15 のとおりであった。

表 15 一般用の放射線の健康影響についての認識

		可能性は 極めて低い	←	→	可能性は 非常に高い
1	現在の放射線被ばくで、急性の健康障害(例えば、1ヶ月以内に死亡するなど)がどのくらい起こると思いますか？	39,687 (66.0%)	11,774 (19.6%)	4,707 (7.8%)	3,964 (6.6%)
2	現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害(例えば、がんの発症など)がどのくらい起こると思いますか？	13,345 (22.1%)	17,958 (29.8%)	13,906 (23.1%)	15,094 (25.0%)
3	現在の放射線被ばくで、次世代以降の人(将来生まれてくる自分の子や孫など)への健康影響がどれくらい起こると思いますか？	9,174 (15.2%)	14,827 (24.6%)	15,241 (25.3%)	20,978 (34.9%)



## 平成 23 年度 県民健康管理調査

### 「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

#### 資 料

平成23年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（子ども用①）」資料

		人数	割合
性別	(回答者数 7,818人)		
(平均年齢 3.1歳)		・男児 3,969	50.8%
		・女児 3,849	49.2%
住所別	(回答者数 7,818人)		
		・県内 5,083	65.0%
		・県外 2,735	35.0%
問1 健康状態	(有効回答 7,776人)		
		・きわめて良好 1,612	20.7%
		・良好 2,789	35.9%
		・普通 3,210	41.2%
		・悪い 152	2.0%
		・きわめて悪い 13	0.2%
問2 震災での経験	※複数回答		
		・地震 7,757	—
		・津波 670	—
		・原子力発電所事故(爆発音を聞いた)	2,633
		・いずれもなし 26	—
問3 治療中の病気	(有効回答 7,769人)		
		・ない 6,472	83.3%
		・ある 1,297	16.7%
問4 入院の経験	(有効回答 7,782人)		
		・ない 5,930	76.2%
		・ある 1,852	23.8%
問5 検査の経験			
1)CT検査	(有効回答 7,776人)		
		・ない 7,100	91.3%
		・ある 514	6.6%
		・わからない 162	2.1%
2)その他、X線を使った検査	(有効回答 7,762人)		
		・ない 6,124	78.9%
		・ある(※ある場合の検査内容)	1,201
		(透視検査)	(1,071) —
		(血管造影)	(58) —
		(核医学検査)	(19) —
		・わからない 437	5.6%
問6 放射線療法の経験	(有効回答 7,770人)		
		・ない 7,609	97.9%
		・ある 14	0.2%
		・わからない 147	1.9%
問7 睡眠時間と昼寝の有無			
1)睡眠時間	(有効回答 7,803人)		
		・平均睡眠時間 9時間43分	
		・平均就寝時間 午後9時16分	
		・平均起床時間 午前7時00分	
2)昼寝の有無	(有効回答 7,805人)		
		・いいえ 3,639	46.6%
		・はい 4,166	53.4%
		(平均昼寝時間 1時間47分)	
問8 食生活			
1)母乳による授乳	(有効回答 7,554人)		
		・はい 424	5.6%
		・いいえ 7,130	94.4%
2)食品等を食べる頻度	—	・本文中に掲載	—
問9 SDQ(4歳以上)	(有効回答 3,427人)		
	(有効回答 1,755人)	・平均総合得点 11.7点	
	(有効回答 1,672人)	・平均総合得点 男 12.1点	
		・平均総合得点 女 11.2点	
		・16点以上 836	24.4%
		(男) (476)	—
		(女) (360)	—
		・20点以上 386	11.3%
		(男) (223)	—
		(女) (163)	—

※()は内数

平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（子ども用②）」資料

		人数	割合
性別	(回答者数 7,464人)		
(平均年齢 9.5歳)		・男児 3,815	51.1%
		・女児 3,649	48.9%
住所別	(回答者数 7,464人)		
		・県内 5,404	72.4%
		・県外 2,060	27.6%
問1 健康状態	(有効回答 7,422人)		
		・きわめて良好 1,387	18.7%
		・良好 2,592	34.9%
		・普通 3,228	43.5%
		・悪い 190	2.6%
		・きわめて悪い 25	0.3%
問2 震災での経験	※複数回答		
		・地震 7,387	—
		・津波 873	—
		・原子力発電所事故(爆発音を聞いた) 2,953	—
		・いずれもなし 25	—
問3 治療中の病気	(有効回答 7,419人)		
		・ない 6,303	85.0%
		・ある 1,116	15.0%
問4 入院の経験	(有効回答 7,425人)		
		・ない 5,454	73.5%
		・ある 1,971	26.5%
問5 検査の経験			
1)CT検査	(有効回答 7,418人)		
		・ない 6,046	81.5%
		・ある 1,029	13.9%
		・わからない 343	4.6%
2)その他、X線を使った検査	(有効回答 7,362人)		
		・ない 5,605	76.2%
		・ある(※ある場合の検査内容)	
		(透視検査) (1,072)	—
		(血管造影) (68)	—
		(核医学検査) (30)	—
		・わからない 563	7.6%
問6 放射線療法	(有効回答 7,425人)		
		・ない 7,211	97.1%
		・ある 19	0.3%
		・わからない 195	2.6%
問7 睡眠時間	(有効回答 7,430人)		
		・平均睡眠時間 8時間36分	
		・平均就寝時間 午後9時46分	
		・平均起床時間 午前6時23分	
問8 普段の運動量	(有効回答 7,452人)		
		・ほとんど毎日している 932	12.5%
		・週に2~4回している 1,495	20.1%
		・週1回程度している 1,075	14.4%
		・ほとんどしていない 3,950	53.0%
問9 食生活	—		
		・本文中に掲載	—
問10 SDQ	(有効回答 7,450人)		
	(有効回答 3,808人)	・平均総合得点 男 11.5点	
	(有効回答 3,642人)	・平均総合得点 女 10.4点	
		・16点以上 1637	22.0%
		(男) (935)	—
		(女) (702)	—
		・20点以上 809	10.9%
		(男) (479)	—
		(女) (330)	—

※()は内数

平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（子ども用③）」資料

		人数	割合
性別 (平均年齢 14.0歳)	(回答者数 3,411人)	・男子	1,717 50.3%
		・女子	1,694 49.7%
住所別	(回答者数 3,411人)	・県内	2,734 80.2%
		・県外	677 19.8%
問1 健康状態	(有効回答 2,491人)	・きわめて良好	557 22.4%
		・良好	679 27.3%
		・普通	1,139 45.7%
		・悪い	98 3.9%
		・きわめて悪い	18 0.7%
問2 自覚症状	(有効回答 2,482人)	・はい	983 39.6%
		※複数回答	
		〔ある場合の症状(本文中に掲載)〕	— —
		〔災害後悪化した症状(本文中に掲載)〕	— —
		・いいえ	1,499 60.4%
問3 睡眠時間	(有効回答 2,501人)	・平均睡眠時間 6時間53分	
問4 運動	(有効回答 2,501人)	・ほとんど毎日している	755 30.2%
		・週に2~4回している	349 14.0%
		・週1回程度している	221 8.8%
		・ほとんどしていない	1,176 47.0%
問5 食生活	—	・本文中に掲載	— —
問6 震災での経験	※複数回答	・地震	2,355 —
		・津波	305 —
		・原子力発電所事故(爆発音を聞いた)	1,018 —
		・いずれもなし	6 —
問7 治療中の病気	(有効回答 3,330人)	・ない	2,838 85.2%
		・ある	492 14.8%
問8 入院の経験	(有効回答 3,325人)	・ない	2,621 78.8%
		・ある	704 21.2%
問9 検査の経験			
		1)CT検査 (有効回答 3,328人)	
		・ない	2,597 78.0%
		・ある	605 18.2%
		・わからない	126 3.8%
	2)その他、X線を使った検査 (有効回答 3,291人)		
		・ない	2,524 76.7%
		・ある(※ある場合の検査内容)	544 16.5%
		(透視検査)	(469) —
		(血管造影)	(34) —
		(核医学検査)	(12) —
		・わからない	223 6.8%
問10 放射線療法	(有効回答 3,339人)	・ない	3,253 97.4%
		・ある	7 0.2%
		・わからない	79 2.4%
問11 SDQ	(有効回答 3,332人)	・平均総合得点 9.7点	
		(有効回答 1,681人)	・平均総合得点 男 9.5点
		(有効回答 1,651人)	・平均総合得点 女 9.8点
		・16点以上	539 16.2%
		(男)	(266) —
		(女)	(273) —
・20点以上	256 7.7%		
		(男)	(123) —
		(女)	(133) —

※( )は内数

平成23年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）」資料

			人数	割合
性別	(回答者数 73,433人)	・男性	32,301	44.0%
(平均年齢 55.5歳)		・女性	41,132	56.0%
住所別	(回答者数 73,433人)	・県内	59,435	80.9%
		・県外	13,998	19.1%
問1 健康状態	(有効回答 62,787人)	・きわめて良好	2,667	4.2%
		・良好	8,533	13.6%
		・普通	39,972	63.7%
		・悪い	10,499	16.7%
		・きわめて悪い	1,116	1.8%
問2 既往歴	—	・本文中に掲載	—	—
問3 検査の受診				
1) CT検査	(有効回答 72,144人)	・ない	37,849	52.5%
		・ある	31,566	43.7%
		・わからない	2,729	3.8%
2) 透視検査	(有効回答 71,976人)	・ない	26,293	36.5%
		・ある	44,300	61.6%
		・わからない	1,383	1.9%
2) その他検査	(有効回答 71,188人)	・ない	59,471	83.6%
		・ある(※ある場合の検査内容)	8,289	11.6%
		(血管造影検査)	(5,801)	—
		(核医学検査)	(669)	—
		(PET検査)	(1,481)	—
		・わからない	3,428	4.8%
問4 放射線療法	(有効回答 71,775人)	・ない	68,089	94.9%
		・ある	1,293	1.8%
		・わからない	2,393	3.3%
問5 自覚症状	(有効回答 63,346人)	・はい	37,878	59.8%
	※複数回答	{(ある場合の症状(※本文中に掲載))	—	—
		{(災害後悪化した症状(※本文中に掲載))	—	—
		・いいえ	25,468	40.2%
問6 1) 日常生活機能	—	・本文中に掲載	—	—
問6 2) レクリエーション参加	(有効回答 71,393人)	・ない、めったにない	46,291	64.8%
		・ときどき参加する	19,424	27.2%
		・よく参加する	5,678	8.0%
問7 睡眠				
1) 睡眠(最近)1カ月間	(有効回答 52,754人)	・満足している	17,587	33.3%
		・少し不満	24,675	46.8%
		・かなり不満	8,180	15.5%
		・非常に不満か、全く眠れなかった	2,312	4.4%
2) 睡眠に関する経験	—	・本文中に掲載	—	—
問8 喫煙				
1) たばこ	(有効回答 70,845人)	・吸ったことがない	40,375	57.0%
		・やめた	15,827	22.3%
		・吸っている	14,643	20.7%
		(平均1日本数 16.0本)	—	—
		(平均喫煙年数 25.8年)	—	—
2) 受動喫煙	(有効回答 64,111人)	・毎日	16,190	25.3%
		・週4-5日程度	6,101	9.5%
		・ときどき参加する	21,940	34.2%
		・めったにない	19,880	31.0%
3) 喫煙(震災以前)	(有効回答 66,878人)	・吸っていなかった	50,588	75.6%
		・吸っていた	16,290	24.4%

※()は内数

			人数	割合
問9 お酒				
1) アルコール飲料の飲酒 (有効回答 71,538人)		・飲まない、または、ほとんど飲まない	37,286	52.1%
		・やめた	2,720	3.8%
		・飲む(月1回以上)	31,532	44.1%
		(飲む酒類と頻度 ※本文中に掲載)	—	—
2) アルコール飲料の飲酒 (有効回答 68,705人)		・飲まない、または、ほとんど飲まない	39,847	58.0%
(震災以前)		・飲む(月1回以上)	28,858	42.0%
問10 食生活	※複数回答	・本文中に掲載	—	—
問11 運動 (有効回答 71,117人)		・ほとんど毎日している	10,581	14.9%
		・週に2~4回している	14,402	20.3%
		・週1回程度している	9,905	13.9%
		・ほとんどしていない	36,229	50.9%
問12 精神健康状態(K6) (有効回答 59,807人)		・平均点 6.3点		
(※男の有効回答 26,321人)		・平均点 男 5.5点		
(※女の有効回答 33,486人)		・平均点 女 6.8点		
		・13点以上	8,717	14.6%
		(男)	(3,133)	11.9%
		(女)	(5,584)	16.7%
		(年齢階層別 ※本文中に掲載)	—	—
		・20点以上	1,954	3.3%
		(男)	(670)	2.5%
		(女)	(1,284)	3.8%
		(年齢階層別 ※本文中に掲載)	—	—
問13 トラウマ反応(PCL) (有効回答 60,704人)		・平均点 33.0点		
(※男の有効回答 26,752人)		・平均点 男 31.2点		
(※女の有効回答 33,952人)		・平均点 女 34.4点		
		・44点以上	13,111	21.6%
		(男)	(4,864)	18.2%
		(女)	(8,247)	24.3%
		(年齢階層別 ※本文中に掲載)	—	—
		・65点以上	2,791	4.6%
		(男)	(1,041)	3.9%
		(女)	(1,750)	5.2%
		(年齢階層別 ※本文中に掲載)	—	—
問14 東日本大災害について				
1) 震災での経験 ※複数回答		・地震	69,700	—
		・津波	14,757	—
		・原子力発電所事故(爆発音を聞いた)	38,392	—
		・いずれもなし	1,095	—
2) 家屋被害認定結果 (有効回答 68,056人)		・被害なし	18,551	27.3%
		・一部損壊	38,485	56.5%
		・半壊	5,225	7.7%
		・大規模	1,963	2.9%
		・全壊	3,832	5.6%
3) 震災による死別体験 (有効回答 70,761人)		・はい	14,091	19.9%
(死別人数有効回答 12,976人)		(1~3人)	(10,272)	79.2%
		(4~6人)	(1,802)	13.9%
		(7~9人)	(391)	3.0%
		(10人以上)	(511)	3.9%
		・いいえ	56,670	80.1%
4) 現在の住まい (有効回答 57,274人)		・避難所	734	1.3%
		・仮設住宅	6,896	12.0%
		・借家・アパート	22,947	40.0%
		・親戚宅	2,460	4.3%
		・持家	21,459	37.5%
		・その他	2,778	4.9%
5) 仕事の状況 (有効回答 67,640人)		・変わった	36,507	54.0%
		(新しく仕事を始めた)	(1,261)	—
		(失業した)	(14,241)	—
		(転職した)	(2,807)	—
		(稼ぎが増えた)	(869)	—
		(稼ぎが減った)	(12,952)	—
		(その他)	(12,090)	—
	※複数回答	・変わらない	31,133	46.0%
問15 放射線の健康影響	—	・本文中に掲載	—	—
問16~19	—	・省略	—	—

※()は内数



## 平成 23 年度 県民健康管理調査

### 「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

#### 電話等による支援結果

(第 10 回検討委員会資料「資料 4」抜粋)

## (1) 目的

平成23年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」回答者のうち、こころの健康度・生活習慣上、相談・支援の必要があると判断された方に、適切なケアを提供することを目的に、臨床心理士や保健師・看護師等による「こころの健康支援チーム」が電話等による相談や情報提供等を実施する。

## (2) 方法

### ① 調査対象者

国が指定した避難区域等の住民の方で、生年月日が平成23年3月10日以前の方

### ② 支援基準

#### ア) こころのケア

##### ・ ハイリスク

子ども：問1（主観的健康観）で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、SDQ（子どもの行動）が20点以上

一般：問1（主観的健康観）で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、K6（全般精神健康度）が20点以上またはPCL（トラウマ関連）が65点以上

##### ・ 基準点超え

子ども：問1で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、SDQ（子どもの行動）が16点以上19点以下

一般：問1で「普通」「悪い」「きわめて悪い」にチェックがあり、K6が13点以上19点以下かつPCLが44点以上64点以下

#### イ) 生活習慣に関するケア（「一般」のみ対象）

- ・ 睡眠障害のある方
- ・ メディカルコントロール（高血圧・糖尿病）がなされていない方
- ・ 精神疾患「あり」にチェックがあった方
- ・ 自覚症状について災害後悪化が明らかに多い方
- ・ 過度の喫煙、または飲酒の認められる方

#### ウ) こころのケア・生活習慣に関するケア 共通

- ・ 調査用紙の欄外に明らかに精神的苦痛、生活困難があると判断される内容が記載されている方

### ③ 支援方法

#### ア) 電話支援

「こころの健康支援チーム」が回答内容を上記の基準により確認し、支援が必要と思われる方に対して電話をかけ、こころの健康度や生活習慣病予防、生活支援等に関する問題について支援を実施した。

イ) 文書による支援（情報提供）

・こころのケア

「ハイリスク」のうち電話番号の記載のなかった方や留守等の理由で電話支援ができなかった方と、「基準点超え」の対象者全員に、心のケア手帳「ほっと安心手帳」（内閣府作成）を送付するとともに、相談窓口として、「こころの健康度・生活習慣に関する調査」専用ダイヤルを案内した。

・生活習慣に関するケア

対象者全員に、生活習慣病予防に関するパンフレットを送付するとともに、相談窓口として、「こころの健康度・生活習慣に関する調査」専用ダイヤルを案内した。

④ 電話支援対象者の選定

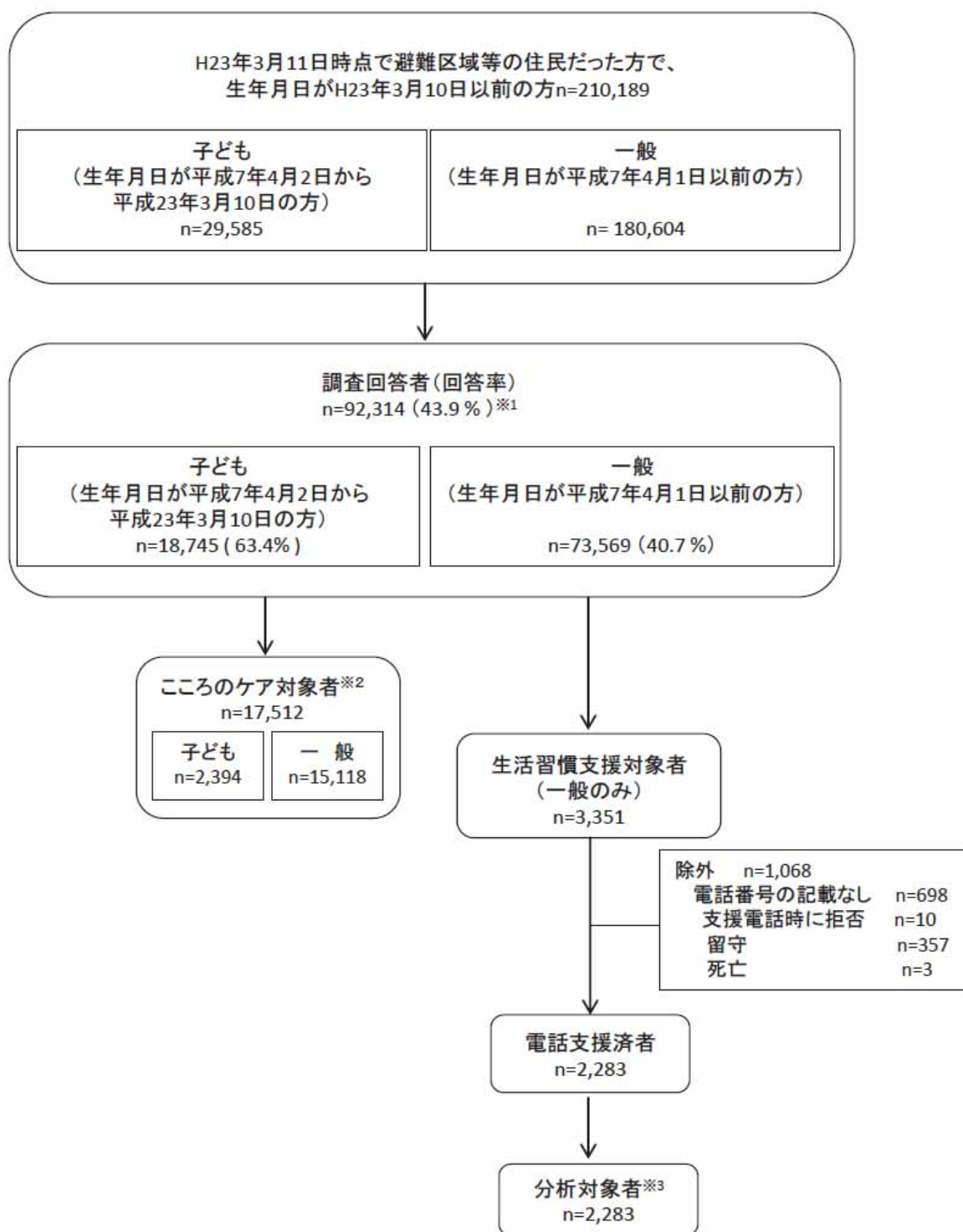
ア) こころのケア（図1、図2）

避難区域等の住民で生年月日が平成23年3月10日以前の方は、210,189名であり、92,314名（43.9%）から調査票の回収があった。そのうち「子ども」（生年月日が平成7年4月2日から平成23年3月10日までの方）は18,745名、「一般」（生年月日が平成7年4月1日以前の方）は73,569名であった。

こころのケア支援対象者におけるハイリスクの方は、子ども1,328名、一般4,220名であり、そのうち支援希望がなかった方などを除く、子ども1,327名、一般4,185名に電話支援を実施した。また、基準点を超えた方11,964名の方に電話支援の希望を尋ねるハガキを送付し、電話による支援を希望した方が、子ども36名、一般1,174名であり、ハイリスクと合わせて、子ども1,363名、一般5,359名の方に電話支援を実施した。

イ) 生活習慣に関するケア（図1）

避難区域等の住民で生年月日が平成7年4月1日以前の方は、180,604名であった。そのうち73,569名（40.7%）から調査票の回収があり、生活習慣支援対象者は3,351名（4.6%）であった。生活習慣要支援対象者のうち、電話番号の記載がなかった方や留守等の理由で電話支援ができなかった方1,068名（31.9%）を除く2,283名（68.1%）に電話支援を実施した。電話支援した方のうち、県内は1,714名（75.1%）、県外が569名（24.9%）であった。

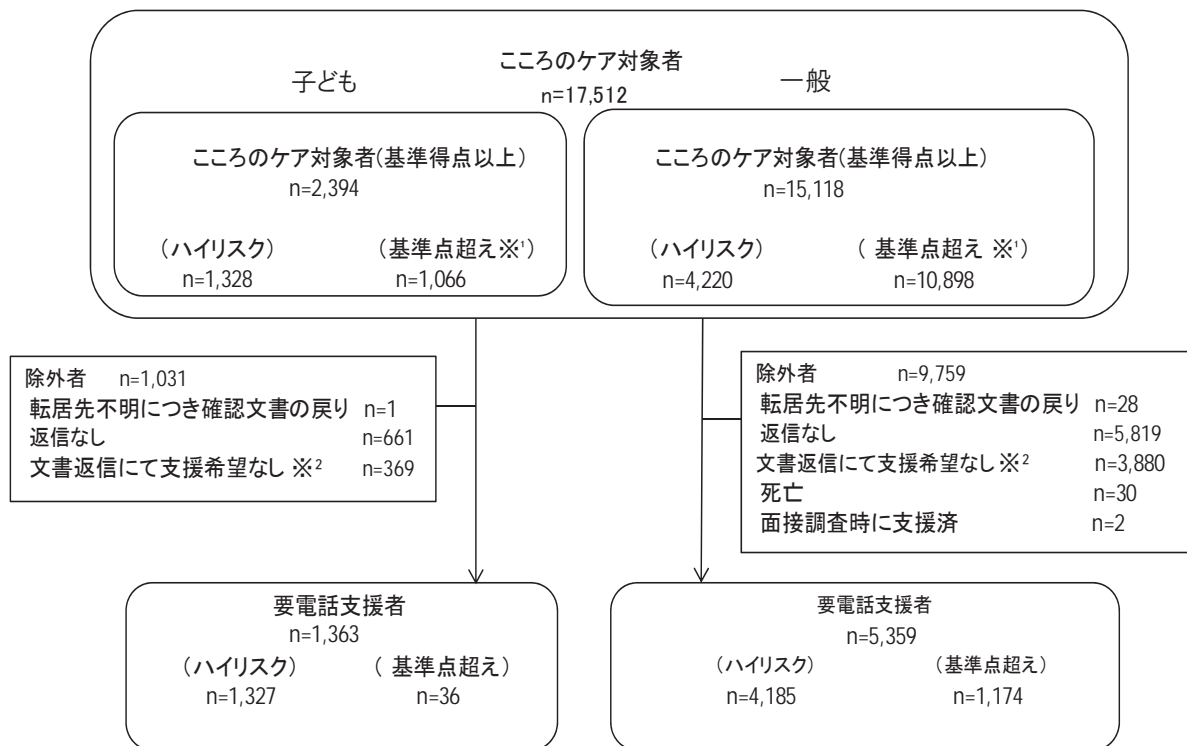


※<sup>1</sup> 平成24年10月31日暫定。重複も含む。

※<sup>2</sup> 詳細については、図2参照。

※<sup>3</sup> 分析結果については、11ページ～13ページ参照。

図1 対象者の選定



※<sup>1</sup> 2012年8月下旬に基準点超えの方全てに送付

ハイリスクの方の支援を優先的に支援を行った後、基準点超えの方もこころの健康リスクの可能性が否定できないため、文章送付を行い現在の状態把握をし支援希望の方など支援が必要と思われる方に電話支援を行った。

※<sup>2</sup> はがき返信時に支援を希望なしに丸を付けた方に対しては除外対象とした

図2 対象者の選定  
(こころのケア詳細)

### (3) こころのケア 結果

#### ① 要支援状況

##### ア) 子ども

子どもの要支援者は全体で 1,363 名であった。要支援者 1,363 名のうち男児が 757 名 (55.5%)、女児が 606 名 (44.5%) であった。また、全体の 86.6%の方に電話支援を行うことができた。

表1 子ども要支援状況 (性別)

	全体 n=1,363	子ども① n=457	子ども② n=675	子ども③ n=231
要支援者数				
男児	757 (55.5)	255 (55.8)	390 (57.8)	112 (48.5)
女児	606 (44.5)	202 (44.2)	285 (42.2)	119 (51.5)
電話支援済み	1,180 (86.6)	401 (87.7)	589 (87.3)	190 (82.3)
文書支援済み	183 (13.4)	56 (12.3)	86 (12.7)	41 (17.7)

表中の値はn(%)

基準点超えの支援希望者が少数(36名)のため、ハイリスク、基準点超えを分けず集計

##### イ) 一般

一般の要支援者は全体で 5,359 名であった。要支援者 5,359 名のうち男性が 1,966 名 (36.7%)、女性が 3,393 名 (63.3%) であった。また、電話支援済み全体のうち 26.9%が県外であり、1,084 人の県外避難者への電話支援を行うことができた。

表2 一般要支援状況 (性別、居住地)

	全体 n=5,359	ハイリスク n=4,185	基準点超え n=1,174
要支援者数			
男性	1,966 (36.7)	1,512 (36.1)	454 (38.7)
女性	3,393 (63.3)	2,673 (63.9)	720 (61.3)
電話支援済み	4,027	2,983	1,044
県内	2,943 (73.1)	2,145 (71.9)	798 (76.4)
県外	1,084 (26.9)	838 (28.1)	246 (23.6)
文書支援済み	1,332	1,202	130
県内	1,096 (82.3)	998 (83.0)	98 (75.4)
県外	236 (17.7)	204 (17.0)	32 (24.6)

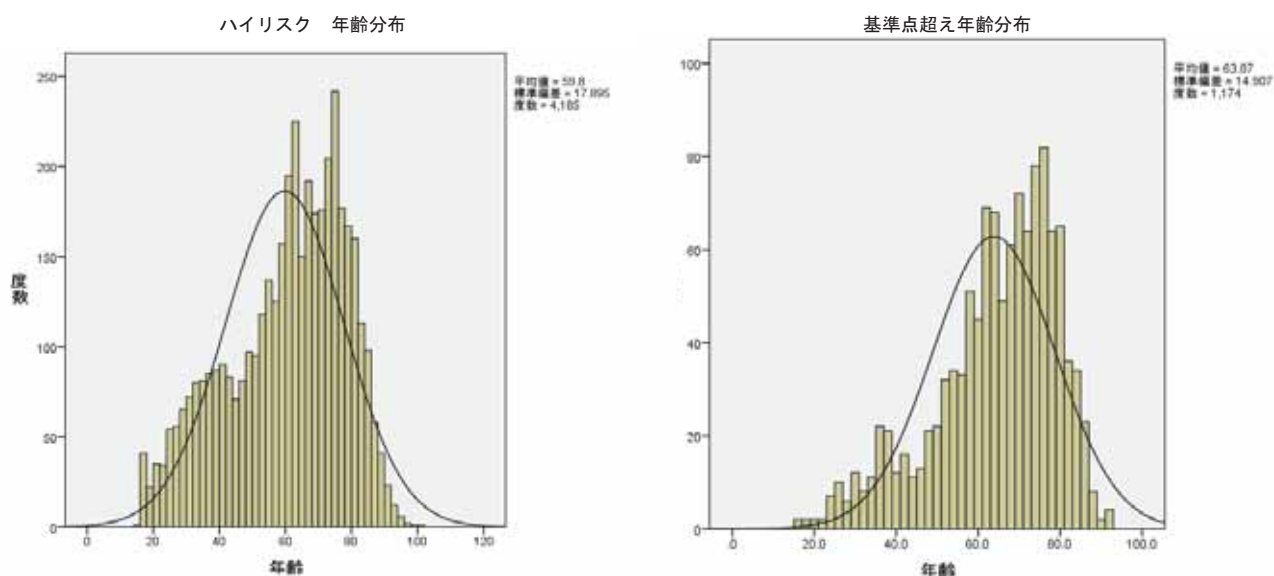
表中の値はn(%)

県内外は、H23年度調査票回収時の最新居住地

表3 一般要支援者状況（年代別）

年齢	【全体 n=5,359】		【県内 n=4,039】		【県外 n=1,320】	
	ハイリスク n=4,185	基準点超え n=1,174	ハイリスク n=3,143	基準点超え n=896	ハイリスク n=1,042	基準点超え n=278
10代	64 (1.5)	6 (0.5)	37 (1.2)	2 (0.2)	27 (2.6)	4 (1.4)
20代	244 (5.8)	32 (2.7)	152 (4.8)	22 (2.5)	92 (8.8)	10 (3.6)
30代	405 (9.7)	71 (6.0)	251 (8.0)	32 (3.6)	154 (14.8)	39 (14.0)
40代	422 (10.1)	80 (6.8)	308 (9.8)	57 (6.4)	114 (10.9)	23 (8.3)
50代	632 (15.1)	181 (15.4)	469 (14.9)	125 (14.0)	163 (15.6)	56 (20.1)
60代	936 (22.4)	303 (25.8)	730 (23.2)	243 (27.1)	206 (19.8)	60 (21.6)
70代	967 (23.1)	360 (30.7)	813 (25.9)	302 (33.7)	154 (14.8)	58 (20.9)
80代以上	515 (12.3)	141 (12.0)	383 (12.2)	113 (12.6)	132 (12.7)	28 (10.1)

表中の値はn(%)  
県内外は、H23年度調査票回収時の最新居住地



② 電話支援結果

ア) 子ども

電話支援の結果、経過観察1と判断された要支援者は、684名（50.2%）であり、経過観察2と判断された要支援者は、414名（30.4%）であった。

表4 子ども電話支援結果内訳

	全体 n=1,363	子ども① n=457	子ども② n=675	子ども③ n=231
支援済み結果				
電話支援済				
経過観察1	684 (50.2)	292 (63.9)	294 (43.6)	98 (42.4)
経過観察2	414 (30.4)	87 (19.0)	254 (37.6)	73 (31.6)
経過観察3	22 (1.6)	6 (1.3)	9 (1.3)	7 (3.0)
支援希望なし	2 (0.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.4)
紹介状	2 (0.1)	2 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
県内登録医師一覧送付	29 (2.1)	8 (1.8)	19 (2.8)	2 (0.9)
県外医療機関資料送付	5 (0.4)	0 (0.0)	4 (0.6)	1 (0.4)
他部門の対応	22 (1.6)	5 (1.1)	9 (1.3)	8 (3.5)
文書支援済	183 (13.5)	56 (12.3)	86 (12.8)	41 (17.7)

表中の値はn(%)

表5 子ども居住地（県内外別）内訳

	全体	県内	県外	
	n=1,363	n=883	n=480	
支援済み結果				
電話支援済	経過観察1	684 (50.2)	475 (53.8)	209 (43.5)
	経過観察2	414 (30.4)	240 (27.2)	174 (36.3)
	経過観察3	22 (1.6)	8 (0.9)	14 (2.9)
	支援希望なし	2 (0.1)	2 (0.2)	0 (0.0)
	紹介状	2 (0.1)	0 (0.0)	2 (0.4)
	県内登録医師一覧送付	29 (2.1)	20 (2.3)	9 (1.9)
	県外医療機関資料送付	5 (0.4)	0 (0.0)	5 (1.0)
	他部門の対応	22 (1.6)	15 (1.7)	7 (1.5)
	文書支援済	183 (13.4)	123 (13.9)	60 (12.5)

表中の値はn(%)

県内は、H23年度調査票回収時の最新居住地

イ) 一般

電話支援の結果、経過観察 1 と判断された要支援者は、ハイリスクでは 1,760 名 (42.1%)、基準点超えでは 807 名 (68.7%) であった。また、経過観察 2 と判断された要支援者は、ハイリスクでは 943 名 (22.5%)、基準点超えでは 180 名 (15.3%) であった。

表6 一般電話支援結果内訳

	【全体 n=5,359】		【県内 n=4,039】		【県外 n=1,320】		
	ハイリスク n=4,185	基準点超え n=1,174	ハイリスク n=3,143	基準点超え n=896	ハイリスク n=1,042	基準点超え n=278	
支援済み結果							
電話支援済	経過観察1	1,760 (42.1)	807 (68.7)	1,346 (42.8)	632 (70.5)	414 (39.7)	175 (62.9)
	経過観察2	943 (22.5)	180 (15.3)	593 (18.9)	124 (13.8)	350 (33.6)	56 (20.1)
	経過観察3	87 (2.1)	28 (2.4)	60 (1.9)	22 (2.5)	27 (2.6)	6 (2.2)
	支援希望なし	24 (0.6)	8 (0.7)	16 (0.5)	6 (0.7)	8 (0.8)	2 (0.7)
	紹介状	1 (0.1未満)	0 (0.0)	1 (0.1未満)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	県内登録医師一覧送付	117 (2.8)	11 (0.9)	108 (3.4)	9 (1.0)	9 (0.9)	2 (0.7)
	県外医療機関資料送付	20 (0.5)	0 (0.0)	5 (0.2)	0 (0.0)	15 (1.4)	0 (0.0)
	他部門の対応	31 (0.7)	10 (0.9)	16 (0.5)	5 (0.6)	15 (1.4)	5 (1.8)
	文書支援済	1,202 (28.7)	130 (11.1)	998 (31.8)	98 (10.9)	204 (19.6)	32 (11.5)

表中の値はn(%)

県内外は、H23年度調査票回収時の最新居住地

《子どもの区分について》

- 子ども①：生年月日が平成 16 年 4 月 2 日から平成 23 年 3 月 11 日までの方（就学前乳幼児）
- 子ども②：生年月日が平成 10 年 4 月 2 日から平成 16 年 4 月 1 日までの方（小学生）
- 子ども③：生年月日が平成 7 年 4 月 2 日から平成 10 年 4 月 1 日までの方（中学生）

《結果の分類について》

- 経過観察 1：医療機関につながっている、もしくは相談相手が身近にいることが確認でき、問題に対して、自身で適切に対応されていると判断できるもの。
- 経過観察 2：医療機関につながっていない、相談相手が身近にいない、もしくは医療機関や家族等からのサポートへの満足度が低い等、問題に対して自身で適切に対応されていると判断できないもの。
- 経過観察 3：支援拒否ではないが、口数が少なく、状況の確認ができなかったもの。
- 支援希望なし：支援の必要はないと、相手から明確に伝えられたもの。
- 他部門の対応：甲状腺検査等、他の部門から回答するのが望ましいと判断されたもの。



③ ハイリスク該当者における「電話支援済み」の対象者を取り巻く問題

対象者がどのような問題を抱えているかを把握するために、電話支援を行った際の記録をもとに語られた問題を類型化し（表7、表8）、概念図を作成した（図3、図4）。

《子ども》

表7 対象者を取り巻く問題（子ども）

<p><b>A.子どもの反応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 身体の不調（身体に現れた症状や問題）</li> <li>b 学校への影響（不登校など学校場面についての問題や訴え）</li> <li>c イライラ・暴力（怒りや衝動性に基づく行動や感情の問題）</li> <li>d 不安・抑うつ（不安感、抑うつが根底にあると認められる行動や問題）</li> <li>e 地震・放射線への反応（地震や放射線に関する子ども自身の反応）</li> <li>f 食行動の変化（食行動やそれに伴う体重変化に関する問題や訴え）</li> <li>g 睡眠の乱れ（睡眠に関する問題や訴え）</li> </ul> <p><b>B. 保護者・家庭の問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 保護者自身（保護者自身のストレス反応）</li> <li>b 住まい（住環境に基づく問題や訴え）</li> <li>c 家族内関係（家族の状況や関係性の変化による問題）</li> <li>d 放射線（放射線に関して保護者が感じる不安）</li> <li>e 経済（生活費や賠償問題など金銭面の問題）</li> </ul> <p><b>C.学校・近隣等の関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 学校・近隣等の関係（学校・近隣の対人関係により保護者が感じるストレス）</li> </ul> <p><b>D.環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 環境（環境変化によるストレス）</li> </ul> <p><b>E.その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a その他（その他分類困難な訴え）</li> </ul>
---

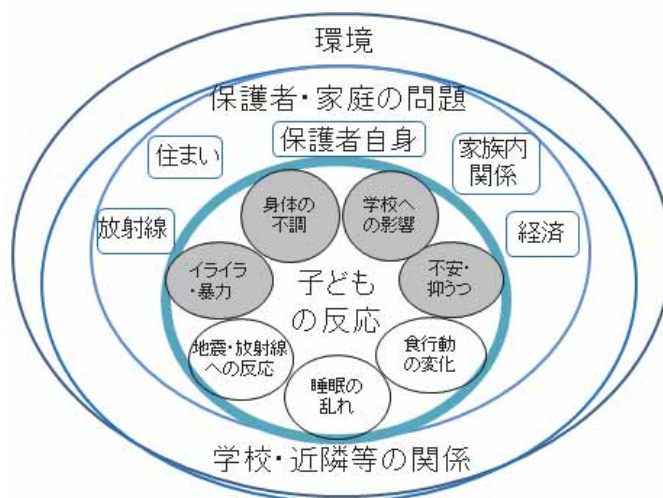


図3 対象者を取り巻く問題の概念図（子ども）

## まとめ

- ① 語られた問題は、A.子どもの反応、B.保護者・家庭の問題、C.学校・近隣等の関係、D.環境、E.その他にまとめられた。
- ② 特に多かったのはA.子どもの反応であり、その中で身体の不調、学校への影響、イライラ・暴力、不安・抑うつであった。

## 《一般》

表8 対象者を取り巻く問題（一般）

<p><b>A.自身の反応</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>a 睡眠の乱れ（睡眠に関する問題や訴え）</li><li>b 身体の不調（身体に現れた症状や問題）</li><li>c 抑うつ（気持ちの落ち込みなどの問題）</li><li>d 将来への不安（被災したことによる今後の仕事や生活を営む上での問題）</li><li>e 怒り・イライラ（怒りや衝動性に基づく行動や感情の問題）</li><li>f 避難生活への不安・不満（避難生活を営む上での問題や訴え）</li><li>g 喪失、悲しみ（被災したことにより家族友人などを失った悲しみに対する問題）</li><li>h 震災の恐怖（震災によって生じている、災害に対する精神的反応）</li><li>i 食行動の変化（食行動やそれに伴う体重変化に関する問題や訴え）</li><li>j 放射線、被ばくなどの不安（放射線の影響に対する不安）</li><li>k 運動不足（避難生活で今までのように動けないことによる問題）</li></ul> <p><b>B.家庭内の問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>a 住環境の変化（避難生活で変化した、住居に関する問題）</li><li>b 家族内関係（家族の状況や関係性の変化による問題）</li><li>c 収入・仕事（震災後生じた、仕事や収入に関する問題）</li><li>d 日常生活・習慣の変更（避難生活で変更を余儀なくされ、生じた問題）</li></ul> <p><b>C.社会生活における問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>a 近隣等の関係（近隣の人とのやりとりで生じている問題）</li><li>b 行政政策への不満・補償問題（事故後の対応についての不満や問題）</li><li>c 周囲の目・偏見（自分が避難者であることから生じた、周囲との問題）</li><li>d 保健・医療・福祉（それぞれの制度やサービスで生じた問題）</li></ul> <p><b>D.風土・文化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>a 風土・文化（その地域独特の風習や気候、文化の違いから生じた問題）</li></ul> <p><b>E.その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>a その他（その地分類困難な訴えについて）</li></ul>
--

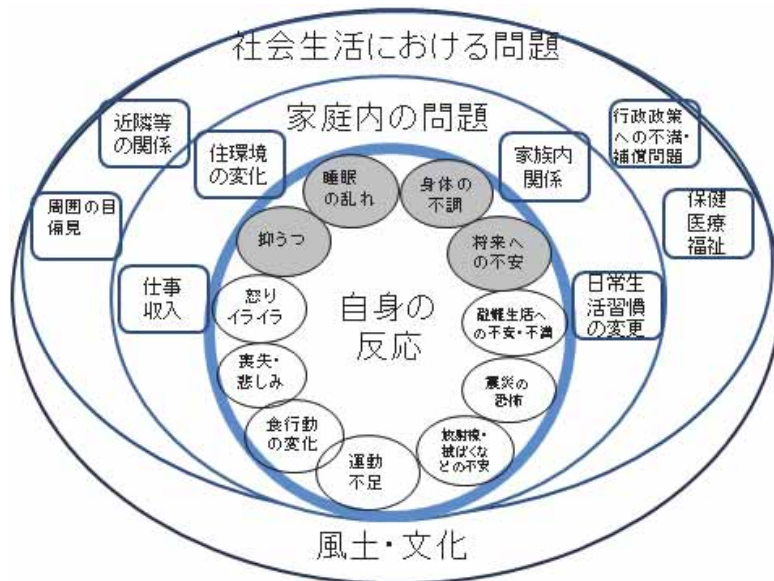


図4 対象者を取り巻く問題の概念図（一般）

まとめ

- ① 語られた問題は、A.自身の反応、B.家庭内の問題、C.社会生活における問題、D 風土・文化、E.その他にまとめられた。

特に多かったのはA.自身の反応であり、その中で睡眠の乱れ、身体の不調、抑うつ、将来への不安であった。

#### (4) 生活習慣に関するケア 結果

##### ① 要支援状況 (表1)

	全体
送付数	180,604
回収数 <sup>1)</sup>	73,569 ( 40.7 )
要支援者数	3,351 ( 4.6 )
男性	1,477 ( 44.1 )
女性	1,874 ( 55.9 )
支援済み	2,283 ( 68.1 )
県内	1,714 ( 75.1 )
県外	569 ( 24.9 )
TEL未支援 <sup>2)</sup>	1,068 ( 31.9 )

表中の値はn(%)

県内外は、H23年度調査票回収時の最新居住地

1)H24年10月31日暫定、重複も含む

2)TEL未支援は、TEL記載なしおよび留守等

生活習慣支援対象者は3,351名(4.6%)であった。要支援者3,351名のうち、男性は1,477名(44.1%)、女性は1,874名(55.9%)であった。

生活習慣要支援対象者のうち、電話番号の記載がなかった方や留守等の理由で電話支援ができなかった方1,068名(31.9%)を除く2,283名(68.1%)に電話支援を実施した。電話支援した方のうち、県内は、1,714名(75.1%)、県外が569名(24.9%)であった。

##### ② 支援済み要支援者状況 (表2)

支援済み要支援者の平均年齢は52.8歳であり、年代別は、60代が538名(23.6%)で、次いで50代が504名(22.1%)、40代が400名(17.6%)であった。10代は28名(1.2%)であった。

表2【生活習慣】 支援済み要支援者状況(県内外・年代別)

	全体 n=2,278 <sup>1)</sup>	県内 n=1,712	県外 n=566
年齢	52.8 ± 15.7	53.7 ± 15.8	50.1 ± 15.1
10代	28 ( 1.2 )	25 ( 1.5 )	3 ( 0.5 )
20代	140 ( 6.1 )	90 ( 5.3 )	50 ( 8.8 )
30代	357 ( 15.7 )	246 ( 14.4 )	111 ( 19.6 )
40代	400 ( 17.6 )	292 ( 17.1 )	108 ( 19.1 )
50代	504 ( 22.1 )	389 ( 22.7 )	115 ( 20.3 )
60代	538 ( 23.6 )	409 ( 23.9 )	129 ( 22.8 )
70代	214 ( 9.4 )	176 ( 10.3 )	38 ( 6.7 )
80代以上	97 ( 4.3 )	85 ( 5.0 )	12 ( 2.1 )

表中の値はn(%)もしくはmean±SD

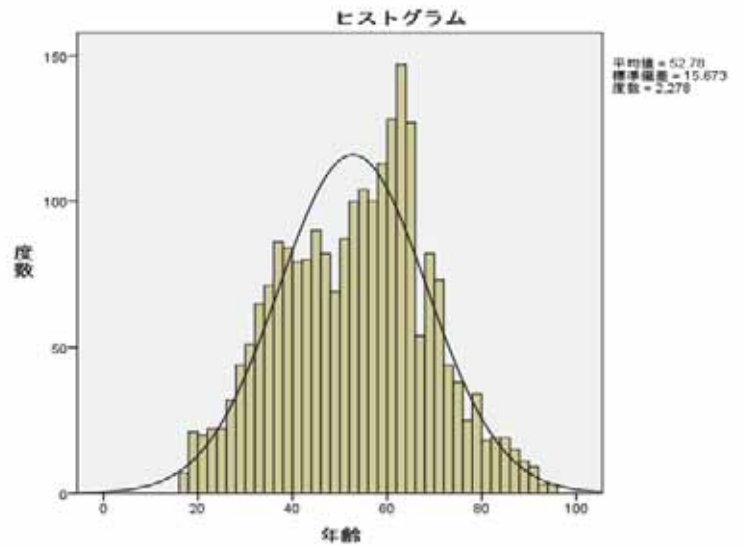
年代区分は、調査票記入時の実年齢

1)支援済みのうち、欠損5人を除く

### 支援済み(全体)

年齢

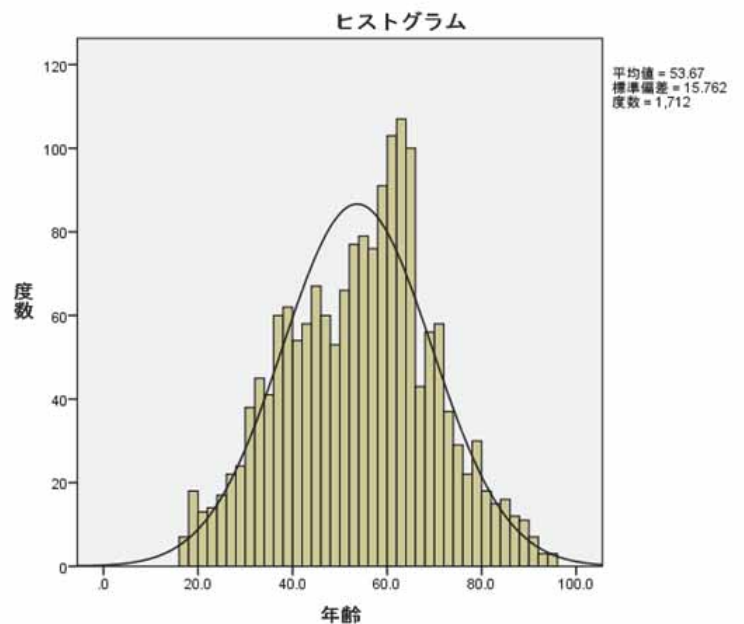
度数	有効	2278
	欠損値	5
平均値		52.8
中央値		54.0
最頻値		63.0
標準偏差		15.7
最小値		17
最大値		95



### 支援済み(県内)

年齢

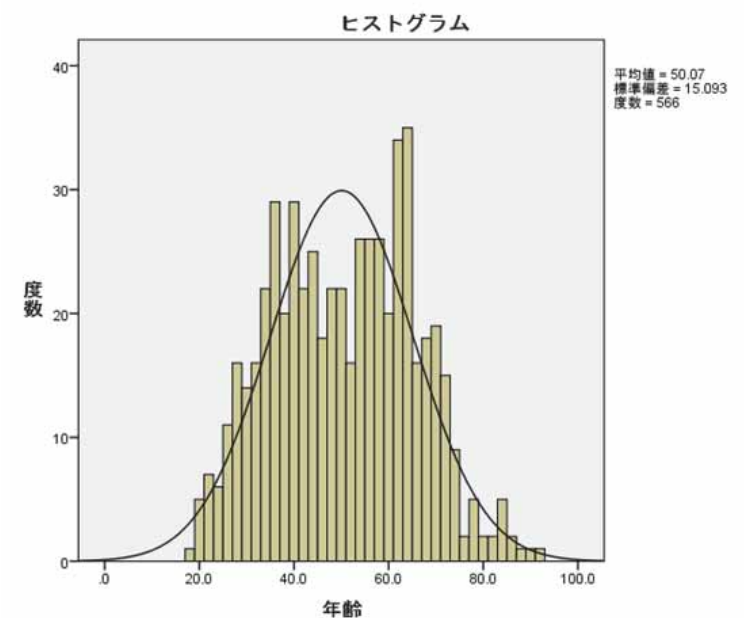
度数	有効	1712
	欠損値	2
平均値		53.7
中央値		55.0
最頻値		63.0
標準偏差		15.8
最小値		17
最大値		95



### 支援済み(県外)

年齢

度数	有効	566
	欠損値	3
平均値		50.1
中央値		50.0
最頻値		62.0
標準偏差		15.1
最小値		18
最大値		91



### ③ 支援済み要支援者結果（表3）

支援済み要支援者の電話支援の結果は、既に通院中または状況改善がみられた「解決」が1,575名（69.0%）、通院または状況改善がみられず、受診勧奨・保健相談などを実施した「相談・紹介」が672名（29.4%）、再度、電話支援が必要または地域の保健師につなぐ必要がある「要支援」が36名（1.6%）であった。

表3 【生活習慣】 支援済み要支援者結果(県内外別) n=2,283

	全体	県内	県外
	n=2,283	n=1,714	n=569
支援済み結果			
解決 <sup>1)</sup>	1,575 ( 69.0 )	1,231 ( 71.8 )	344 ( 60.5 )
相談・紹介 <sup>2)</sup>	672 ( 29.4 )	457 ( 26.7 )	215 ( 37.8 )
要支援 <sup>3)</sup>	36 ( 1.6 )	26 ( 1.5 )	10 ( 1.8 )

表中の値はn(%)

1) 通院中または状況改善

2) 受診勧奨・保健相談・保健師などの相談紹介

3) 再度、電話支援が必要または地域の保健師につなぐ必要あり

### ④ 電話支援状況（表4）

「支援基準該当あり」のうち、睡眠は1,058名（46.3%）、喫煙・飲酒は98名（4.3%）であった。また、喫煙・飲酒の受診勧奨・保健相談数は60名（61.2%）であった。

表4 【生活習慣】 支援済み要支援者の電話支援状況 n=2,283

	支援基準 該当なし	支援基準 該当あり	【支援基準該当あり内訳】	
			TEL前 解決済 <sup>1)</sup>	受診勧奨・ 保健相談 <sup>2)</sup>
高血圧	1,344 ( 58.9 )	939 ( 41.1 )	637 ( 67.8 )	302 ( 32.2 )
糖尿病	2,038 ( 89.3 )	245 ( 10.7 )	157 ( 64.1 )	88 ( 35.9 )
精神疾患	1,650 ( 72.3 )	633 ( 27.7 )	557 ( 88.0 )	76 ( 12.0 )
自覚症状	1,799 ( 78.8 )	484 ( 21.2 )	343 ( 70.9 )	141 ( 29.1 )
睡眠	1,225 ( 53.7 )	1,058 ( 46.3 )	782 ( 73.9 )	276 ( 26.1 )
喫煙・飲酒	2,185 ( 95.7 )	98 ( 4.3 )	38 ( 38.8 )	60 ( 61.2 )

表中の値はn(%)

1) 電話支援の連絡をするが、電話支援前に解決済み

2) 電話支援前は未解決のため、受診勧奨・保健相談をする